

2022 年度 履修要覧

現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）

東洋学園大学大学院（現代経営研究科現代経営専攻 修士課程）

2022 年度履修要覧・シラバス 目次

履 修 要 覧

I. 東洋学園大学大学院 現代経営研究科 によろこそ	1
II. 本学の沿革と構成	
1. 本学の沿革	2
2. 本学の構成（研究科、学部・学科の紹介）	2
III. 現代経営研究科の教育目標（3 ポリシー）	5
IV. 東洋学園大学大学院学則	7
V. 履修の手引	
1. 単位制と課程の修了要件	21
2. 授業科目の構成と履修モデル	21
(別表)	25
3. 授業時間	23
4. 試験と成績	26
5. 修士論文の指導と審査	29
VI. その他	
1. 研究活動上の不正行為防止について	34
2. 1号館7階（大学院生フロア）の使用について	35

シ ラ バ ス

学 事 日 程	36
---------	----

【基礎研究科目】

マーケティング研究	隈本 純	37
アカウンティング研究	木村 昭興	40
ファイナンス研究	富田 洋介	43
人的資源研究	横山 和子	46
経営学手法研究	木川 大輔	50

【基幹研究科目】

経営管理研究	赤尾 充哉	53
経営戦略研究	李 新建	56
人的資源戦略研究	横山 和子	59

財務会計研究	富田 洋介	62
管理会計研究	木村 昭興	65
ファイナンス戦略研究	富田 洋介	68
リスクマネジメント	畔上 秀人	71
相続・事業継承設計	富田 洋介	74
タックスプランニング	富田 洋介	77
特別講義Ⅰ	清水 由美	80
特別講義Ⅱ	清水 由美	83

【関連研究科目】

ビジネス経済研究	田中 巖	86
ビジネス法律研究	北島 純	89
欧米ビジネス研究	セーラ バーチュリ	92
中国ビジネス研究	李 新建	96

【実践研究科目】

ケーススタディ 1 (マーケティング)	隈本 純	99
ケーススタディ 2 (ファイナンス)	畔上 秀人	102
ケーススタディ 3 (ヒューマン・リソース)	横山 和子	105

【課題研究科目】

現代経営特別演習	研究指導スケジュール	108
	畔上 秀人	109
	李 新建	109
	隈本 純	110
	田中 巖	110
	木川 大輔	111
	赤尾 充哉	111
	安藤 拓生	112
	木村 昭興	112
	富田 洋介	113
	セーラ バーチュリ	113

【基礎科目】

経営学研究	安藤 拓生・木川 大輔	114
-------	-------------	-----

I. 東洋学園大学大学院 現代経営研究科 にようこそ

東洋学園大学 学長 辻中 豊

自彊不息（じきょうやまず）の丘、本郷台地の先端にある東洋学園大学にようこそ！

この学生便覧は、皆さんがこれから送る 4 年間の学生生活という旅の、とても大切な羅針盤であり、地図です。ちょっと重いですが、はじめにしっかり全体を眺め、そして気になるところから読んでみましょう。

たくさんの規則や説明、案内そして、さまざまな大学からのサービス、気を付けること、窓口の案内などが記載されています。わからないところは、教員、職員に遠慮なく聞いてみましょう。先輩に聞くのも大切ですね。この便覧は、皆さんと大学との約束の束ですから、ちょっと困ったとき、迷ったときには、この便覧を読み直してみてください。

さて、自彊不息の丘、といいましたが、この言葉、自彊不息は、東洋学園大学の建学の精神です。といっても、とても古い言葉（易経が出典）ですので、説明が必要ですね。

自彊の「彊」という字は、強という字に書き替えられますが、もともとはこの難しい字です。よく見ると、弓と一と田と一と田と一から成っています。田んぼを区切り弓で守る、という意味を示す象形文字のようですね。つまり、自彊不息というのは、自分の愛するフィールドをしっかりと休みなく、自分で強化し続ける、ということですね。たゆまず自ら努めて励む、学び続けることです。まず大切なのは、自分の好きなフィールドを見つけ、それを続けていくことです。好きなフィールドさえ見つければ、難しいことではないでしょう。

とはいっても、自分の好きなフィールドとは、何でしょう、どのように見つけるのでしょうか。漢字が示すように昔のお百姓さんには田んぼや畑ですが、21 世紀に生きる今の皆さんにとっては何でしょう。東洋学園大学は、時代の変化に応える国際人を育てる面倒見のよい大学です。皆さんが、この大学生活の中で、一生、続けていける、好きなフィールドを見つけてほしい、そのための助力をしっかりとしたいと私たちは考えています。

本郷台地の先端にあるこの地は、皆さんが自分の好きなフィールドを見つけ、探究するのにとてもよい場です。江戸時代には、近くの湯島の聖堂で人々が学び、その後明治以降の近代化の中で、日本が海外の知との間で格闘し切磋琢磨した場が、この本郷台地です。ここから、今も様々な道や線路が伸び、現代社会の成長の先端部分に繋がっています。

それでは、この本郷キャンパスで、現代という時代をみつめ格闘しながら、しっかりと自彊不息の自分のフィールドを見出す旅に、出掛けていきましょう。楽しい旅にようこそ。

Ⅱ. 本学の沿革と構成

1. 本学の沿革

本学の設立母体である学校法人東洋学園の歴史は、1926（大正 15）年、故宇田尚先生が東京・本郷に創設した財団法人東洋女子歯科医学専門学校に始まる。

東洋女子歯科医学専門学校は、1950（昭和 25）年の学制改革により廃止されるまでの 25 年間で、2,844 名の女性歯科医を世に送り出し、女性の社会進出が立ち遅れていた戦前期に女性の専門的職業教育の分野で大きな足跡を残した。

東洋女子歯科医学専門学校が廃止された 1950 年 4 月、新たに英語教育に重点をおいた東洋女子短期大学が同じ東京・本郷の校地に設立され、以来すでに 60 年の校史を積み重ねている。

この間、1982（昭和 57）年には本郷キャンパスの英語英文科に加え、千葉県流山キャンパスに地域研究を柱とした多角的な国際化教育を行う欧米文化学科を新設するなど、東洋女子短期大学は、女性の自立を目標に、つねに時代を先取りした新しい試みの教育を実践してきたが、2006（平成 18）年に歴史の幕を閉じ、その伝統は本大学に引き継がれることとなった。

学校法人東洋学園は、このような女子高等教育の実績を、より高度に、またより深く掘り下げ、日本の国際化という新たな時代の要請に応えるため、男女共学の 4 年制大学の新設に踏み切った。こうした歴史と背景のもとに、1992（平成 4）年、東洋学園大学が開設されたのである。

開設当初は、人文学部の 1 学部であったが、2002（平成 14）年に本郷キャンパスに現代経営学部を設置し、2 学部を有する大学となった。また、2006（平成 18）年から、教養教育の充実とキャンパス共用化による大学としての一体感の醸成等を目的として、両学部の 1・2 年生は流山キャンパス、3・4 年生は本郷キャンパスで学ぶこととなった。そして、2008（平成 20）年にこれまでの学部教育において展開してきた経営学分野の教育内容を基礎としつつ、学部教育で培われた専門的な素養のある人材として活躍できる基礎的能力に立ち、専門性を一層向上させていくことを目指して、大学院現代経営研究科現代経営専攻修士課程を設置した。さらに、2013 年度の入学生からは人文学部を発展的に解消し、代わりにグローバル・コミュニケーション学部と人間科学部を設置した。そして、前者には、グローバル・コミュニケーション学科と英語コミュニケーション学科を付置し、同時に後者の人間科学部には、専門性を高めるための教育と施設の充実を図っているところである。

2. 本学の構成

本学（Toyo Gakuen University）は、「高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、広い視野と国際的な識見を備えた有能な人材の育成」（学則）という目的を追求するために、グローバル・コミュニケーション学部（Faculty of Global Communications）、人間科学部（Faculty of Human Sciences）、現代経営学部（Faculty of Business Administration）及び現代経営研究科（Graduate School of Business Administration）を有している。

グローバル・コミュニケーション学部は、グローバル・コミュニケーション学科 (Department of Global Communications) と英語コミュニケーション学科 (Department of English Communications) の 2 学科で構成されている。人間科学部は人間科学科 (Department of Human Sciences) の 1 学科で構成されており、現代経営学部は、現代経営学科 (Department of Business Administration) の 1 学科で構成されている。現代経営研究科は、現代経営専攻 (Master's Program in Business Administration) の 1 専攻で構成されている。

現代経営研究科

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

現代経営学部

現代経営学科

現実には発生するさまざまな経営問題は、世界的な広がりを持ちながら複雑かつ多様化している。そのため、経営分野における知識の習得に加えて、主体的に変化に対応し得る、幅広い視野や総合的な判断力、豊かな創造性を兼ね備えた人材の養成が求められる。そこで、現代経営学部では、現実の経営問題を的確に認識し、総合的な企業経営や経営管理が実践できる知識や能力と英知 (Wisdom) を獲得するために必要な教育を行う。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

グローバル・コミュニケーション学科は、日本や諸外国の文化・社会に関する知識をもち、グローバル社会の諸課題について理解することにより、社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信できる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科は、①英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、実践的な英語のトレーニングを通じて、英語によるコミュニケーション能力を養うことにより、グローバルビジネスや文化関連産業で活躍できる人材、②英語に関する専門的な知識を身につけ、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、英語教育活動に必要なコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

人間科学部

人間科学科

人間科学科では、人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、①人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参加し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力と②社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。

Ⅲ．現代経営研究科の教育目標（3ポリシー）

学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

現代社会は大きな転換点にあり、変化のスピードも増進している。日本はすでに超高齢社会に突入しており、今後、経済の活力を維持、増進し、豊かで安全、安心な社会を維持させる方策を見出すことが喫緊の課題となっている。

一方、グローバル化が急速に進み、我々の豊かな生活を維持するためには、世界と協調し相互に平和で最適な依存関係を構築していかなければならない。

世界全体としてみれば、持続可能な発展（Globally Sustainable Development）が理念的に合意、確立されている。実際、中国、インドといった人口大国が急速な経済発展を実現させ、先進国へのキャッチ・アップ過程に突入しつつある。

経営環境に目を転じると、各企業は狭い自己利益の追求のみでなく、社会的責任（CSR）を果たし、法律の遵守や社会的な常識・通念を厳密に守ること（Compliance）が強く求められるようになってきている。

こうした社会的な環境変化にその根源まで立ち入って的確・迅速・柔軟に分析を行い、現代的な経営の諸課題の解決を図ることができる知識と能力をもつ人材を養成することが本現代経営研究科の目標である。

本研究科では、上記の目標を達成するために編成されたカリキュラムに従って学習、研究を行い、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査を通過した学生に対して経営学修士の学位を授与している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するため、以下の点を特徴とするカリキュラムを編成している。

第一に研究・分析・調査の基礎的能力の習得・育成を目指して教育を行う。

第二に研究者の養成のみならず、経営管理や経営戦略などの経営実践を担う中核的な役割を果たす人材を養成する。そのため、学部教育から継続して大学院に進学する者だけでなく、実務経験者への教育も行う。学生に対しては、経営学分野に関するより高度な知識や能力を培うとともに、経営実践現場における高度に専門的な職務を担うために必要とされる応用力や実践力を身につける。

カリキュラムは経営管理、経営戦略、マーケティング、アカウンティング、ファイナンス、人的資源の経営領域の基礎から応用のみならず、経済学や法律などに及ぶ諸関連分野を学び、かつ実践的な知識を身につけられるように、基礎科目、基礎研究科目、基幹研究科目、関連研究科目、実践研究科目を段階的に学習できるように編成されている。また、現代経営特別演習においては、2年間にわたり少人数で研究指導を行う体制をとっており、個々の学生の能力や個性に沿った修

士論文の研究指導を行う。そこでは研究方法の指導のみならず、論文の作成方法、研究倫理に関する指導も行う。

科目履修に当たり、学生にはモデル A（マネジメント系）、モデル B（アカウンティング系）、モデル C（ファイナンシャル・プランナー系）の 3 つの履修モデルが提示されており、各自の研究分野に応じて履修科目を適宜選択できるように配慮されている。モデル C は日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の CFP®認定教育プログラムに対応した履修モデルである。

さらに必要に応じて、学部の専門科目・英語科目の聴講を通じ、基礎知識や語学スキルの習得機会を提供し、研究者、ビジネスパーソンとして必要な素養や能力の陶冶を図っている。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

現代経営研究科では、一定の学力を有し、本学の基本理念である『自彊不息』の精神に則り、学習・研究に不断の努力を惜しまない姿勢をもち、将来、研究者、企業の経営管理者として活躍することを目指す学生の入学を期待し、そのような学生をわが国のみならず世界から迎え入れる。

4 年制大学卒業生のみならず、短期大学卒業生でも実社会で 2 年以上の実務経験をもつ者に対して受験資格を認めることで、大学院で専門的な知識を身につけたいという意欲を持った社会人に対しても広く門戸を開いている。また、経営学の基礎科目を設置し、学部科目の履修も可能にすることで、多様なバックグラウンドを有する学生の入学も奨励している。

一方、本学学部で優秀な成績を収めている学生に対しては、一定の条件の下で 4 年次から大学院の授業を履修することを認め、最短 1 年の大学院在学で修士課程を修了できる「学部・修士 5 年一貫プログラム」を設けている。

最後に、教育研究の特色として次の 3 つを挙げる。

1. 学生数 10 名前後の徹底した少人数指導
2. 基礎から応用までを体系的に学べる、バランスのとれた教育体系
3. ケーススタディによる実践的教育

IV. 東洋学園大学大学院学則

目 次

第 1 章 総則

第 2 章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限

第 3 章 入学、休学、復学、再入学及び転入学

第 4 章 退学、転学、除籍及び復籍

第 5 章 教育課程及び履修方法等

第 6 章 課程の修了等

第 7 章 外国人留学生

第 8 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生

第 9 章 検定料、入学金、授業料その他の納付金

第 10 章 職員及び事務組織

第 11 章 研究科委員会

第 12 章 賞罰

第 13 章 課外講座

第 14 章 準用規定

第 15 章 学則の変更

附 則

別 表 1

別 表 2

第1章 総則

(目的)

第1条 東洋学園大学大学院（以下「本大学院」という）は、東洋学園大学の教育精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業等を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の教育目的及び社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。

第2章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限

(課程)

第3条 本大学院に修士課程を置く。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性が求められる職業等に必要の高度の能力を培うことを目的とする。

(研究科・専攻)

第4条 本大学院に現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）を置く。

2 現代経営研究科現代経営専攻は、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的とする。

(学生定員)

第5条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻名	課程	入学定員	収容定員
現代経営研究科	現代経営専攻	修士課程	10	20

(修業年限及び在学年限)

第6条 修士課程の標準修業年限は2年とする。

2 修士課程の在学年限は4年を超えることができない。

3 転入学の場合にあつては、学長が定める在学すべき年数の二倍に相当する年数を超えることができない。

4 再入学及び復籍の場合にあつては、退学、除籍前の在学年数と通算して4年

を超えることができない。

- 5 第1項の規定にかかわらず、実務の経験を有する者、又は学部において優秀な成績を修め、本大学院において必要とされる基礎的な学識を有する者であって、昼間と併せてその他の特定の時間において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う場合の標準修業年限は、1年とする。

第3章 入学、休学、復学、再入学及び転入学

(入学の時期)

第7条 入学の時期は毎学年の始めとする。

- 2 前項の他にも、必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学の資格)

第8条 本大学院の修士課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が三年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が別に定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(入学の出願)

第9条 本大学院に入学を志願する者は、所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第10条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第11条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の学納金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第12条 学生は本大学院入学時、保証人を届出なければならない。

保証人は、保証する学生の身上について一切の責任を負う。

2 保証人の資格その他については別に定める。

(休学)

第13条 病気その他の理由で、引続き2ヵ月以上出席できない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められた者については、学長は休学を命ずることができる。

3 学長は、教育上有益と認められた者については、休学することなく、外国の大学院（学位授与権を有する高等教育機関）又はこれに相当する教育研究機関等に留学することを許可することができる。なお、当該留学期間に係る在学年数の取り扱いについては、別に定める。

(休学の期間)

第14条 休学期間は、第6条の在学年数に算入しない。

2 前項の休学の期間は、春学期末又は秋学期末を終期とし、通算で2年を超えることは出来ない。

(復学)

第15条 休学期間中にその理由が消滅した場合には、学長の許可を得て復学することができる。

2 復学の時期は原則として期の始めとする。

(再入学及び転入学)

第16条 本大学院に再入学、もしくは他の大学院から転入学を志望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

第4章 退学、転学、除籍及び復籍

(退学及び転学)

第17条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 他の大学院へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍及び復籍)

第18条 次の各号の一に該当する者は学長が研究科委員会の議を経てこれを除籍する。

(1) 第6条に規定した在学年限を超える者

(2) 休学の期間が通算で2年を超え、なお修学できない者

(3) 長期間にわたり行方不明の者

(4) 授業料その他納付金を所定の期日までに納めず、督促してもなお納付しない者

2 前項(4)号により除籍された者が復籍を願い出るときは、選考の上、相当年次に復籍することができる。

3 前項の規定により復籍を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

第5章 教育課程及び履修方法等

(教育方法)

第19条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

(授業科目)

第20条 本大学院に設置する授業科目の種類、単位数等は別表1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第21条 授業科目の単位数は、東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、その学修の成果等を評価して単位を与えることが適切と認められる授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(単位の授与及び学習の評価)

第22条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。学習評価の基準は、S、A、B、C、Dの5段階とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。成績審査の方法は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

第6章 課程の修了等

（課程の修了要件）

第23条 学生は修士課程修了のため、当該課程に2年以上在学し、在学中に別表1に定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。但し、第6条第5項に定める者の在学期間は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 修士論文の審査及び最終試験については、別に定める。

（他の大学院における授業科目の履修等）

第24条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院の定めるところにより他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、10単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得した単位とみなし、前条に規定する修了に必要な単位数に含めることができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学院等に留学する場合に準用する。

（入学前の既修得単位等の認定）

第25条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転入学等の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条第1項及び第2項により本大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて10単位を超えないものとする。

（他の大学院等における研究指導）

第26条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等に留学し、研究指導を受ける場合に準用する。

（課程の修了）

第27条 学生が、第23条により所定の要件を満たしたとき、学長は研究科委員会の議を経て課程の修了を認定し、学位記を授与する。

2 修了の時期に関する規程は別に定める。

(学位)

第 28 条 前条により本大学院の課程の修了を認められた者には、次のとおり学位を授与する。

課程	研究科名	専攻名	学位
修士課程	現代経営研究科	現代経営専攻	修士（経営学）

2 学位の授与に関し必要な事項は別に定める。

第 7 章 外国人留学生

(外国人留学生)

第 29 条 外国人が、大学院教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生の入学に関しては第 8 条から第 12 条の規定を適用する。

3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規程を準用する。

4 その他外国人留学生に関する規程は別に定める。

第 8 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生

(科目等履修生)

第 30 条 第 8 条に規定する資格を有する者で、本大学院の特定授業科目につき履修しようとする者があるときは、その授業及び研究を妨げない限り、学長は研究科委員会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生には、本大学院学則第 22 条の規定を準用して単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別聴講学生)

第 31 条 他の大学院の学生で、当該大学院との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする者は、特別聴講学生として履修を許可することができる。

2 前項の規定は、大学院以外の教育施設等との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。

3 前 2 項の規定は、外国の大学院の学生等で当該大学院等との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。

4 特別聴講学生に関する規程は別に定める。

(研究生)

第 32 条 本大学院において特定の事項について研究することを希望する者があるときは、研究生として、これを許可することができる。

2 研究生に関する規程は別に定める。

第 9 章 検定料、入学金、授業料その他の納付金

(検定料等の金額)

第 33 条 本大学院の検定料、入学金、授業料その他の納付金については別表 2 のとおりとする。

2 入学金、授業料その他の納付金は所定の期日までに納めなければならない。

(休学及び退学等の場合の授業料等)

第 34 条 休学期間の授業料は半額とし、維持費、施設設備費は徴収しない。但し、休学した日及び復学した日に属する期分の授業料その他の納付金は全額を徴収する。

2 前項但書にかかわらず、休学した日に属する期分の授業料その他の納付金を徴収する場合において、休学した日が学期の開始日であるときは、前項本文の規定を適用する。

3 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料その他の納付金は徴収する。

4 停学期間中の授業料その他の納付金は徴収する。

(納付金の取扱)

第 35 条 既に納めた入学金、授業料その他の納付金はいかなる場合も返却しない。但し、入学時の授業料等納付金については別に定める。

第 10 章 職員及び事務組織

(職員組織)

第 36 条 本大学院に、学長、副学長、研究科長、専攻長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長の職務)

第 37 条 学長は、本学を代表し、校務を掌り、所属職員を統督する。

2 学長は、必要に応じ、その職務を補佐する者、若干名を委嘱することができる。

(副学長の職務)

第 38 条 副学長は、学長の職務を助け、又、学長の命を受けた職務を行う。

(研究科長、専攻長の職務)

第 39 条 研究科長は研究科を代表し、研究科に関する校務を掌る。

2 専攻長は、研究科長を補佐し、専攻に関する校務を掌る。

(教育職員の職務)

第 40 条 教授は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2 准教授、講師、助教は、教授に準ずる職務に従事する。

3 助手は、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(職員の任用)

第 41 条 職員の任用は、学校法人の人事規程によって行う。

(事務組織)

第 42 条 事務の組織及び業務については別に定める。

第 11 章 研究科委員会

(研究科委員会の構成)

第 43 条 本大学院の研究科に研究科委員会を置き、次の者をもって構成される。

(1) 研究科長

(2) 専攻長

(3) 教授

(4) 准教授

(5) 講師

(研究科委員会議長)

第 44 条 研究科委員会は研究科長が召集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、研究科長は代理を指名する。

(研究科委員会開会の条件)

第 45 条 研究科委員会は、構成員の三分の二以上の出席がなければ、開会することが出来ない。

(研究科委員会の決議)

第 46 条 研究科委員会の決議は、出席者の過半数の同意による。賛否同数のときは議長の裁決による。

(研究科委員会の召集請求)

第 47 条 研究科長は、構成員の三分の二以上から附議すべき事項を示して研究科委員会の召集を請求された場合、2 週間以内にこれを召集しなければならない。

(研究科委員会の審議事項)

第 48 条 研究科委員会は学長が定める次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 専攻及び課程の設置、廃止に関する事項

(2) 授業科目の編成、変更及び実施に関する事項

(3) 学位授与に関する事項

- (4) 単位の授与、研究指導、学位論文の審査及び最終試験に関する事項
 - (5) 学生の入学、退学、休学、転学、除籍、復籍、留学及び課程の修了に関する事項
 - (6) 学生の訓育指導及び賞罰に関する事項
 - (7) 研究科の教員の選考に関する事項
 - (8) 授業科目及び研究指導の担当者に関する事項
- 2 研究科委員会は、学長及び研究科長（以下、「学長等」）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 第1項第7号及び第8号に基づく教員の人事に関する審議は、研究科長、専攻長及び教授である委員のみで行う。

（研究科委員会と理事会の関連事項）

第49条 研究科委員会の決議中、理事会所管事項に関連あるものについては、理事会の承認を要する。

（研究科委員会に係るその他の事項）

第50条 研究科長は必要と認めたときは、事務職員その他の者を研究科委員会に列席させることができる。この列席者は議決権を持たない。

第12章 賞罰

（表彰）

第51条 人物学業ともに優秀で他の学生の模範となる者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを表彰することがある。

（罰則）

第52条 本大学院の規則もしくは命令に従わず、又は学生の本分に反する行為があった者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを懲戒することがある。

- 2 前項の懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
 - (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者
 - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
 - (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反し、本大学院に在学させることが適当でないと認められた者

第13章 課外講座

（課外講座）

第53条 本大学院は、課外講座、公開講座又は講習会等を開催することがある。

第 14 章 準用規定

第 54 条 本大学院に関する事項については、この学則等に定めるもののほか、東洋学園大学学則及び諸規程等の定めを準用する。この場合において、「学部」とあるのは「研究科」、「学部長」とあるのは「研究科長」、「教授会」とあるのは「研究科委員会」とそれぞれ読み替えるものとする。

第 15 章 学則の変更

(学則の変更)

第 55 条 本学則の変更は、研究科委員会の議を経て理事会が行う。

附則 1 この学則は平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 第 6 条第 5 項及び第 23 条第 1 項但書の規定は、平成 21 年 4 月 1 日の入学者から適用する。

附則 2 この学則は平成 21 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 3 この学則は平成 23 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 4 この学則は平成 24 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 5 この学則は平成 25 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 6 この学則は平成 26 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 7 この学則は平成 27 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 8 この学則は平成 29 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 29 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則 9 この学則は平成 30 年 4 月 1 日から改定施行する。

附則 10 この学則は平成 30 年 6 月 1 日から改定施行する。

附則 11 この学則は平成 31 年 4 月 1 日から改定施行する。

(2) この学則は平成 31 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

別表 1. 授業科目・単位数

研究科 専攻 課程	区分	授 業 科 目	単位数	必修	選択	必 要 要 件
現代経営研究科 現代経営専攻 修士課程	科 基 目 礎	経営学研究	4		4	
	基礎 研究 科目	マーケティング研究	2	2		基礎研究科目は、 10 単位を修得し なければならない。
		アカウンティング研究	2	2		
		ファイナンス研究	2	2		
		人的資源研究	2	2		
		経営学手法研究	2	2		
	基幹 研究 科目	経営管理研究	2		2	基幹研究科目は、 8 単位以上を修 得しなければならない。 但し、「特別講義 Ⅰ」、「特別講義 Ⅱ」で修得した単 位は、当該要件単 位数には算入さ れない。 なお、留学生は、 上記 8 単位に加 え、「特別講義 Ⅰ」、「特別講義 Ⅱ」、計 2 単位を 修得しなければならない。
		マーケティング戦略研究	2		2	
		経営戦略研究	2		2	
		人的資源戦略研究	2		2	
		財務会計研究	2		2	
		管理会計研究	2		2	
		ファイナンス戦略研究	2		2	
		不動産運用設計	2		2	
		パーソナルファイナンス	2		2	
		リスクマネジメント	2		2	
		相続・事業継承設計	2		2	
		タックスプランニング	2		2	
		特別講義Ⅰ	1		1	
		特別講義Ⅱ	1		1	
	関連 研究 科目	ビジネス経済研究	2		2	関連研究科目は、 4 単位以上を修 得しなければならない。
		ビジネス法律研究	2		2	
		欧米ビジネス研究	2		2	
		中国ビジネス研究	2		2	
	実践 研究 科目	ケーススタディ 1 (マーケティング)	2		2	実践研究科目は、 4 単位以上を修 得しなければならない。
		ケーススタディ 2 (ファイナンス)	2		2	
		ケーススタディ 3 (ヒューマン・リソース)	2		2	
	究課 科題 目研	現代経営特別演習	6	6		課題研究科目は、6 単 位を修得しなければ ならない。

別表 2. 検定料、入学金、授業料、その他

イ、検定料	30,000 円
ロ、入学金	200,000 円
ハ、授業料	700,000 円
ニ、維持費	100,000 円
ホ、施設設備費	100,000 円

学校法人東洋学園の設置する学校を卒業した者、又はその課程を修了した者の学納金は別に定める。

第 6 条第 5 項の規定を適用する者の学納金については別に定める。

所定の修業年限を超えて在学する者の学納金は別に定める。

この別表に規定するもののほか、検定料、入学金、授業料その他の納付金の取扱いに関し、必要な事項は、別に定める。

V. 履 修 の 手 引

1. 単位制と課程の修了要件

(1) 単位制と単位計算

単位制とは、本大学院の定める基準に従い授業科目を履修し、それらの試験に合格することにより所定の単位数を修得したときに、修了資格が与えられる制度である。

単位は「1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」(大学院設置基準)とし、授業の方法に応じて教育効果、時間外に必要な学修等を考慮して定められている。

本大学院では東洋学園大学大学院学則第21条(注参照)のとおり規定している。なお、本学では90分の授業をもって2時間の授業とする。

(注①) 東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。

(注②) 講義及び演習については15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

※15時間の授業で1単位ということは、「45時間の学修で1単位」という基準を満たすためには、他に30時間の「時間外に必要な学修」(自習)が必要となる。

(注③) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

※30時間の授業で1単位ということは、「45時間の学修で1単位」という基準を満たすためには、他に15時間の自習が必要となる。

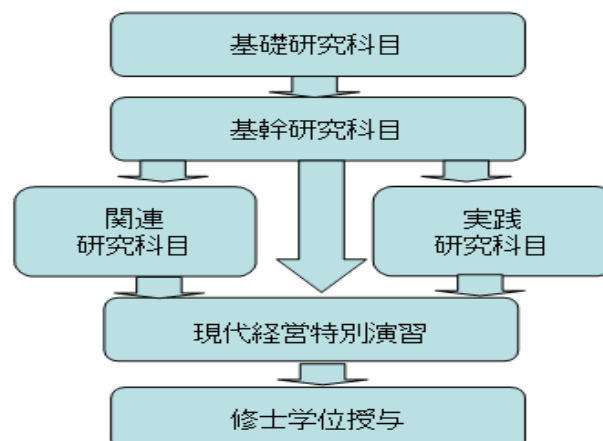
(注④) (注①)(注②)にかかわらず、現代経営特別演習等の授業科目についてはこれらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

※これにより「修士論文」が6単位となっている。

(2) 修了の要件(東洋学園大学大学院学則23条から28条参照)

2. 授業科目の構成と履修モデル

(1) 授業科目の構成は次のとおりである。



○基礎研究科目

主要な職能分野にわたる基礎的知識を習得する科目

○基幹研究科目

志向する職能分野に関する専門的な知識を一層深化させる科目

○関連研究科目

主要な職能分野の専門性を補完し、自己の研究課題と関連付け、研究内容を発展させる科目

○実践研究科目

経営実践現場を想定してのロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどによる体験学習や実践事例の分析による総合的な課題学習を行う科目

○現代経営特別演習

文献調査や実地調査を通じて、専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、研究成果に関する修士論文を作成させるための個別指導をおこなう科目

※その他、必要に応じ補習科目を開講する。受講学生については本大学院が指定する。

(2) 履修モデル

選択科目については、マネジメント系（モデルA）、アカウンティング系（モデルB）、ファイナンシャル・プランナー系（モデルC）の3つの履修モデルが用意されている（別表参照）。各自の研究分野を考慮し適切なコース、科目を選択するのが望ましい。

モデルCは、特定非営利活動法人（NPO 法人）日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定教育プログラム」に対応するモデルで、協会が認める「所定の課程」の単位を取得し、また、協会の認める「提案書課題の作成」講座を受講、修了することにより、AFP資格の認定を受ける権利を得ることが出来る。

また、「所定の課程」の単位を取得することで、AFP 資格認定を経ることなく、CFP®資格審査試験の受験資格を得ることが出来る。

なお、詳細については、「CFP®認定教育プログラム」担当教員より個別に指導を受けること。

※AFP （Affiliated Financial Planner）

CFP® （Certified Financial Planner ®）

3. 授 業 時 間

時 限	時 間
1	9 : 00 ～ 10 : 30
2	10 : 40 ～ 12 : 10
3	13 : 00 ～ 14 : 30
4	14 : 40 ～ 16 : 10
5	16 : 20 ～ 17 : 50

交通機関の不通と気象警報発令時における授業措置について

- 1 自然災害（台風、地震、大雪等）、事故等により鉄道が不通の場合、気象庁から東京23 区東部・西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業措置は、次の通りとする。

① 台風等の自然災害、事故等により鉄道が不通の場合の授業措置

JR の下記路線すべてが全線運行停止の場合

山手、中央、総武、京浜東北、常磐の各路線

(1) 始発迄に運行が開始された場合 授業平常通り

(2) 午前7 時迄 〃 第2 時限より授業

(3) 午前10 時迄 〃 第3 時限より授業

(4) 午前10 時迄に運行されない場合 全日休講

② 気象警報が発令された場合の授業措置

東京23 区東部・西部に暴風、大雪、暴風雪のいずれかの警報または特別警報が発令された場合

(1) 午前6 時迄に気象警報等が解除された場合 授業平常通り

(2) 午前7 時迄 〃 第2 時限より授業

(3) 午前10 時迄 〃 第3 時限より授業

(4) 午前10 時の時点で気象警報等が発令中の場合 全日休講

③ 大規模地震対策特別措置法に基づく「警戒宣言」が発令された場合の授業措置

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予測され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合は、直ちに授業を中止し、以降の授業を全て休講とする。翌日以降の取扱いは、以下の通りとする。

(1) 午前6 時迄に解除された場合 授業平常通り

(2) 午前6 時までに解除されない場合 全日休講

- 2 オンライン授業は、上記①、②、③の場合であっても原則授業を実施するが、状況により何ら

かの措置が図られる場合は、TG-Navi 等により周知を行う。

- 3 天候悪化等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合は、大学は原則として前日17 時迄に上記授業措置について、大学ホームページへの掲載およびTG-Navi での通知により周知を行う。なお、交通機関の不通と気象警報発令時以外の場合の授業等に関する措置は、TG-Navi等により周知を行うものとする。

別 表

現代経営研究科現代経営専攻修士課程履修モデル

科目区分	科 目 名	配当	単位	モデルA	モデルB	モデルC	摘 要
基礎科目	経営学研究	1	4	○	○	○	※修了要件に含まない
基礎研究科目	マーケティング研究	1	2	○	○	○	5科目10単位必修
	アカウンティング研究	1	2	○	○	○	
	ファイナンス研究	1	2	○	○	Ⓡ	
	人的資源研究	1	2	○	○	○	
	経営学手法研究	1	2	○	○	○	
基幹研究科目	経営管理研究	1・2	2	○			4科目8単位以上選択 ※「特別講義Ⅰ」、「特別講義Ⅱ」は上記要件単位に含まない ※留学生は、上記8単位に加え、「特別講義Ⅰ」、「特別講義Ⅱ」を修得しなければならない
	マーケティング戦略研究	1・2	2	○			
	経営戦略研究	1・2	2	○			
	人的資源戦略研究	1・2	2	○			
	財務会計研究	1・2	2		○		
	管理会計研究	1・2	2		○		
	ファイナンス戦略研究	1・2	2		○		
	不動産運用設計	1・2	2			Ⓡ	
	パーソナルファイナンス	1・2	2			Ⓡ	
	リスクマネジメント	1・2	2			Ⓡ	
	相続・事業継承設計	1・2	2			Ⓡ	
	タックスプランニング	1・2	2		○	Ⓡ	
	特別講義Ⅰ	1	1				
	特別講義Ⅱ	1	1				
関連研究科目	ビジネス経済研究	1・2	2		○	○	2科目4単位以上選択
	ビジネス法律研究	1・2	2	○		○	
	欧米ビジネス研究	1・2	2	○			
	中国ビジネス研究	1・2	2		○		
実践研究科目	ケーススタディ1（マーケティング）	2	2	○		○	2科目4単位以上選択
	ケーススタディ2（ファイナンス）	2	2		○	○	
	ケーススタディ3（ヒューマン・リソース）	2	2	○	○		
課題研究科目	現代経営特別演習	1～2	6	○	○	○	6単位必修
修得単位数				32単位	32単位	34単位	
本院修了要件単位数				32単位			

※本表はあくまで推奨される履修モデルであり、本表通りに履修する必要はない。但し、摘要欄に記載される各事項(要件)を満たす履修を行わなくてはならない。

4. 試験と成績

(1) 定期試験

定期試験は原則として春学期及び秋学期の授業終了後に期間を定めて実施する。

ただし、科目によっては、定期試験期間以外の日に試験を実施する場合や定期試験に代えてレポートを課す場合がある。

定期試験の実施日程、時間割などの詳細は事前に掲示により発表する。

(2) 追試験

追試験は病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった者に対して実施される試験であり、次のように実施される。

①追試験の受験希望者は、「追試験願」を所定の期日までに教務課に提出し、科目担当者の許可を得なければならない。

②「追試験願」には、以下のとおり定期試験を受験できなかった正当な事由を証明する書類(試験を欠席した日付が確認できること)を添付しなければならない。

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病 ※1	医師の診断書又はそれに準ずる書類 (法定伝染病に罹患し出席停止となった期間は公欠とする。)
忌 引	会葬札状又は死亡診断書(写し) (忌引きの取扱いにより公欠とする。)
交通機関の遅延	交通機関の遅延証明書(駅発行のもの)
交通事故	事故証明書(写し)又は医師の診断書
災害(台風、水害、火災、地震等)	罹災証明書(写し)等、災害の状況が把握できる書類
就職活動 ※2	企業、官公庁等発行の証明書(就職活動の場所・日時を明記し、社印等が押印されていること)又はそれに準ずる書類
裁判員候補者として呼出しを受けた場合 または裁判員に選任された場合	裁判所が発行する呼出状(写し)又は証明書
その他やむを得ない理由	試験を受けられなかった正当な事由を証明する書類又はそれに準ずる書類

※1 インフルエンザ等の法定伝染病に罹患し出席停止の診断が医師より行われた場合は、大学所定の「診断・登校許可証明書」を保健室にて受け取り、医師の証明を受けたうえ提出すること。

※2 試験が優先されるので、日程調整のうえ、やむを得ない場合のみ願出することができる。

③定期試験に代わるレポートをやむを得ない理由で期限までに提出できなかった場合も、定期試験欠席と同様に見なし、追試験と同じ手続をとらなければならない。

④追試験を受ける者は所定の受験料を納入すること。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、受験料の納入は免除される。

⑤追試験の点数は原則として得点の 80%とし、対象科目の成績評価基準により成績が決定する。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、得点を減じず評価が行われる。

⑥追試験の実施日程、時間割など詳しい内容は事前に掲示により発表する。

(3) 再試験

①再試験は定期試験を受けた結果不合格となったが、出席時数は満たされている 2 年次での履修科目が対象となる。

②「現代経営特別演習」に関しては、再試験は実施されない。

- ③再試験が許可された科目を受験希望する者は、所定の期日までに手続きを行わなければならない。
- ④再試験を受ける者は所定の受験料を納入しなければならない。
- ⑤再試験による成績の評価は、原則として C ないし D とする。
- ⑥実施日程については、追試験と同時に行なう。従って追試験の再試験は実施しない。

(4) 試験実施要領

- ①試験を受けるには、学生証の提示が必要とされる。忘れた場合は、同一試験期間内において原則として 2 回まで、教務課で仮学生証の交付を受けることができる。
- ②学生証は机上の見やすい位置に提示する。
- ③試験場では筆記用具と特に指定されたもの以外は使用することはできない。
- ④解答用紙を提出する際には、試験監督者の指示に従わなければならない。試験場退出後に再入室することはできない。
- ⑤解答用紙を提出しなかった者はその期のその試験を放棄したものと見なし、その試験を不合格とする。その場合の追試験は認められない。
- ⑥試験を遅刻した場合は、20 分以内で、かつ試験監督者の許可を得た場合に限り、受験することができる。それ以外の場合は受験を認めず、欠席と見なされる。
- ⑦欠席（20 分を越える遅刻の場合を含む）した場合は、速やかに「追試験願」を教務課に提出すること。
- ⑧試験において、不正行為があったと判定された場合は、その期のその科目は不合格とし、学則等にもとづいて厳重な処分が課される。

(5) 成績の評価と表示

- ①履修した授業科目の成績評価は下記②の成績評価基準に基づき、各授業科目に設定された評価方法により、到達目標への達成度を評価するものとする。なお、各授業科目に設定されている到達目標、評価方法は、シラバスを参照すること。
- ②成績の評価は次のように表示される。

合否	成績評価	評価基準
合格	S	90～100
	A	80～89
	B	70～79
	C	60～69
不合格	D	～59

- ③合格の判定を得た後、最終的にその授業科目の単位を修得する。
- ④成績は成績通知書によって、本人に通知する。

(6) 忌引等による欠席

忌引き及び公的行事による欠席であり、その旨を記載した「欠席届」が教務課に提出されている場合は、授業に関して出席扱いとなる。上記事由による試験の欠席については、追試験の実施等に関して特別に配慮される場合がある。

忌引日数は、死亡日から起算した連続日数とし、休業日と重複してもその日数を加算しない。手続には、会葬礼状または死亡診断書(写)等の提出を要する。公欠となる親族の範囲及び公欠となる期間は下記の通りとする。

父母、配偶者、子	7日以内
兄弟姉妹、祖父母	5日以内
曾祖父母、叔父叔母、甥姪	3日以内

課題レポート、論文提出にかかわる諸注意

課題レポート、論文の作成・提出に当たっては以下の点に注意を要する。

1. 他の学生のレポート・論文等の内容、表現と同一あるいは酷似する部分を含むレポート・論文等が提出され、不正行為と判断された場合、同一あるいは酷似するレポート、論文を提出した全ての者は不正行為を犯したものと見なされ、当該科目は不合格となるとともに厳重な処分が課される。
2. インターネット上に掲載されている他人のレポート・論文等を複写し、引用元の明示なく、自らのレポート・論文の全てあるいは一部として提出した場合、著作権、知的財産権侵害の不法行為として、当該科目が不合格となるとともに厳重な処分が課される。
3. 修士論文の提出後に、上記「1」「2」に該当する不正行為、不法行為の存在が発覚した場合には、研究科委員会による調査、審議に基づき、当該行為を行った者及び責を負うべき関係者に対し、厳重な処分が課される。

5. 修士論文の指導と審査

(1) 修士論文指導（研究指導）教員について

- ①修士論文指導（研究指導）は、「現代経営特別演習」の教員が主指導教員となり、副指導教員とともに担当する。
- ②修士論文指導（研究指導）を担当する教員は、論文の内容について指導するだけでなく、形式に関する規定、提出方法に関する規定を守らせるように学生に指導する。

(2) 修士論文に関するスケジュール

スケジュールの概要については下記およびシラバスを参照のこと。

なお、修士論文指導（研究指導）を担当する教員によって各指導時期の調整がなされる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。

1 年 次		
春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
○研究計画書提出 ○個別面接指導 ○指導教員確定	○研究計画書確認 ○個別面接指導 ○文献調査及び実地調査	○研究計画書確認 ○個別面接指導 ○論文中間報告会 ○論文作成
2 年 次		
春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
○個別面接指導 ○論文計画書提出 ○論文作成	○論文計画書確認 ○個別面接指導 ○調査研究のまとめ ○論文作成	○個別面接指導 ○論文研究発表会 ○論文提出 ○論文審査面接

(3) 修士論文の審査について

規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の合議により評価される。

主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査1名は副指導教員が担当する。

残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。

(4) 修士論文審査基準

修士論文の審査基準は以下の通りとする。

- ①テーマの設定は適切か。明確な問題意識のもと、具体的な研究の目的が示されているか。
先行研究のレビューは十分か。理論仮説の導出は適切か。
- ②分析方法は適切か。統計処理、データ解析は妥当か。分析結果は明確で、意味があるか。
- ③考察や理論的解釈は妥当か。オリジナリティーはあるか。従来研究成果にとどまらず、新しい成果や解釈が得られているか。
- ④論旨の展開は明確か。引用のルールは守られているか。故意のデータや分析結果の改竄、ないし剽窃はないか。誤字・脱字がなく、文章表現は正確か。注の付け方、図表の挿入の仕方、参考文献リストの作成は整っているか。

(5) 2021年度修士論文提出方法・日程について

1. 提出資格

修士論文の提出資格は以下の資格要件を満たしている必要がある。

- (1) 所定単位の修得者、あるいは修得見込みの者であること。
- (2) 「修士論文計画書」が提出されていること。
- (3) 修士論文研究発表を行った者であること。

2. 修士論文研究計画書

- (1) 所定の「修士論文計画書」に必要事項を記載し、7月1日（金）までに教務課へ提出すること。
- (2) 「修士論文計画書」は主指導教員の指導のもとで作成し、承認印を受けた上で提出しなければならない。
- (3) 修士論文計画書提出以降における論文主題の変更は、8月26日（金）までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。
- (4) 修士論文研究発表会以降における論文主題への副題の追加及び副題の変更は、11月18日（金）までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。

3. 修士論文研究発表会

- (1) 研究発表会は上記「修士論文計画書」を提出した者が行うことができる。
- (2) 研究発表会は10月27日（木）に実施する。
- (3) 研究発表会に参加する者は、発表内容について事前に主指導教員の十分な指導を受けた上で発表を行うこと。

- (4) 修士論文発表会の実施に関する詳細は別途定める「修士論文研究発表会実施要領」に基づく。

4. 修士論文の提出条件

- (1) 修士論文を提出しようとする者は、所定の期限の内に修士論文の一次提出を行わなければならない。特段の事情があると認められた場合を除き、期限内に一次提出のない者は修士論文の最終提出を行うことができない。
- (2) 修士論文の最終提出に際しては、事前に主指導教員及び副指導教員の許可を得なければならない。

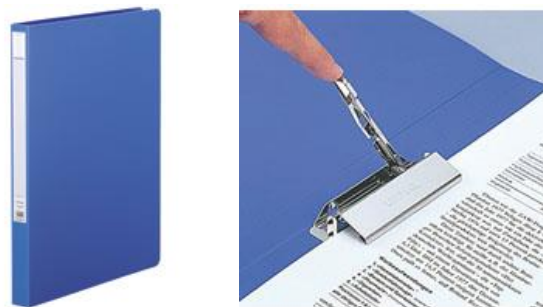
5. 修士論文提出期限等

- (1) 提出期限： 一次提出 12月12日（月）
最終提出 1月12日（木） （詳細は別途連絡する）
- (2) 提出受付時間： 午後5時まで
- (3) 提出場所： 教務課
- (4) 提出期限、提出時間を過ぎた場合は、原則として受理しない。
- (5) 郵送による提出は認めない。代理人による提出は正式な委任状の提出を必要とする。
- (6) 最終提出後の訂正及び修正は原則として認められない。

6. 修士論文作成及び提出方法について

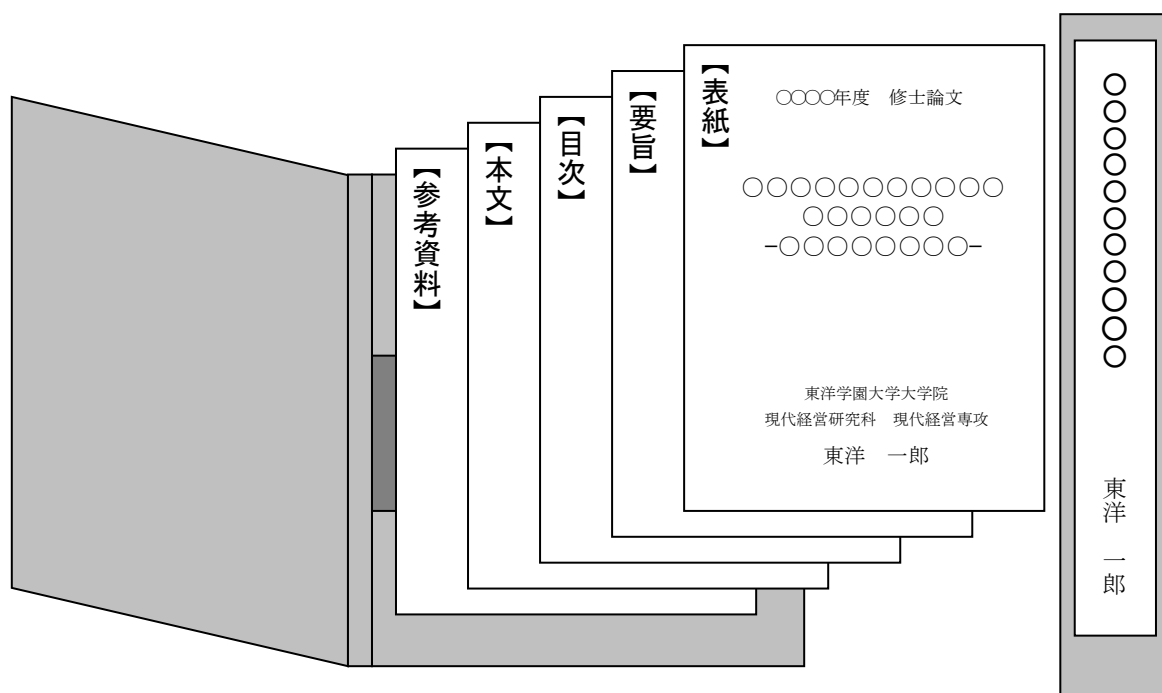
- (1) 日本語または英語でA4横書きとする。日本語の場合は、原則として、横40字、縦30行、片面打ち、フォントの大きさは11ポイントの明朝体による。手書きの場合は、A4横書きの原稿用紙を使用すること。英文の場合はダブル・スペースで、ワープロ使用のみとする。
- (2) 字数は、原則として20,000字以上とする。
- (3) 修士論文には必ず「修士論文要旨」を添付すること。修士論文要旨はA4横書き、700字程度とする。
- (4) 修士論文は、修士論文提出許可書とともに、正1部、副2部を提出する。
- (5) 修士論文は「表紙」「修士論文要旨」を添付した上で、市販のバインダー（レバーファイル）に綴じて提出すること。綴じ方については以下を参照のこと。

〔市販バインダー（レバーファイル）例〕



〔綴じ方
紙〕

〔背表



※1 正本・副本ともに上図のとおり綴じて提出すること。

※2 背表紙は手書きで論題と氏名を記入のこと。

- (6) 論文の目次を作成し（様式自由）、本文の前に綴じること。なお、本文には必ずページ番号を付すこと。
- (7) その他必要な参考資料等は、本文の後に綴じること。
- (8) A4 横書きの表は90度左に回転させ綴じること。なお、本文中のA4横書きの表は90度左に回転させたうえページ番号を下に付すこと。

7. 修士論文審査面接

- (1) 修士論文審査面接は2月初旬に行う。(詳細は別途連絡する)
- (2) 審査面接時には、論文、その他必要な資料を持参すること。

8. 修士論文の審査員

- (1) 規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の合議により評価される。

主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査1名は副指導教員が担当する。残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。

- (2) 1名の副査は9月に開催される研究科委員会で決定する。

VI. そ の 他

1. 研究活動上の不正行為防止について

本学を構成する全ての者は、研究活動上の不正行為を防止し、研究活動上の不正行為が行われ、またはその恐れがある場合、厳正かつ適正な対応を図らねばなりません。

本学を構成する全ての者とは役員、教職員及び学生等をいい、学生等とは本学に在学及び在籍して修学または研究に従事する全ての者をいいます。つまり、学部学生はもとより、本学大学院で研究活動を行う院生諸君も当然ながら含まれます。

研究活動上の不正行為とは、研究の立案、計画、実施、成果の取りまとめの各過程（修学上行われる論文作成を含む）において行われる以下の行為をいいます。

【研究活動上の不正行為】

- (1) 捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
- (2) 改ざん 研究資料、機器、過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られたデータ、研究成果等を真正でないものに加工すること。
- (3) 盗用 他の研究に携わる者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究に携わる者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。
- (4) 研究費の不適切な使用
物品購入に係わる架空請求、不当な旅費の請求、実態と異なる謝金の請求、その他公募型の研究資金を配分する機関の定めなどに違反して研究費を使用すること。

万が一、上記のような不正行為がなされている、あるいは、なされる恐れがあると認識した場合には、通報・相談窓口である法人本部企画部に通報・相談して下さい。

【通報・相談窓口連絡先】

法人本部企画部 本郷校舎 1 号館 8 階
電話 ： 03 (3811) 1731
mail ： kikaku-announce@tyg.jp

2. 1号館7階（大学院生フロア）の使用について

本郷校舎1号館7階には、大学院学生が授業で使用するゼミ教室の他に、大学院学生の専用施設として次のものが設置されています。

- | | |
|------------|----------------------------------|
| (1) 院生研究室 | 研究活動を行うためのデスク、PC、プリンター等を設置しています。 |
| (2) 院生ロッカー | 大学院学生の個人所有物を保管するため貸与するものです。 |

利用については、以下の注意事項を遵守して下さい。

【注意事項】

- ①院生研究室は共有スペースなので、個人の所有物を放置しないようにして下さい。
- ②院生研究室内での飲食は禁じます。
- ③校舎内は、喫煙所以外での喫煙は厳禁となっています。
- ④院生研究室内での私語は他の院生の迷惑にならぬよう注意して下さい。
- ⑤PC、プリンター、コピー機等の備品取扱には十分注意のこと。マシントラブル等については、法人本部（1号館8階）まで連絡のこと。
- ⑥コピー機は、7階院生談話室内のコピー機をご利用ください。
- ⑦院生ロッカーには貴重品は保管せず、常時施錠するよう注意して下さい。
- ⑧院生ロッカーは貸与するものなので、鍵の管理には十分注意して下さい。万が一、紛失等の場合には、総務課（1号館1階）まで申し出て下さい。
- ⑨教員研究室、講師控室、教材作成室、コピーコーナー（教員用）、給湯室等の教員専用スペースには教員の承諾なく入室することができません。
- ⑩喫煙所、トイレ等の教員との共用スペースの使用にあたっては、マナーに気をつけ使用して下さい。

2022 年度 シラバス

現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）

学 事 日 程

【春学期】 4月1日(金)～9月15日(木)

入学式	4月2日(土)
授業開始	4月11日(月)
創立記念日	5月1日(日)
全学休業日	5月2日(月)
授業終了	7月26日(火)
補講	7月9日、16日(土)
定期試験	7月27日(水)～7月30日(土)
夏季休業	8月1日(月)～9月12日(月)
事務閉鎖	8月11日(木)～8月18日(木)
追・再試験	8月24日(水)

※4月29日(金)、5月4日(水)、5月5日(木)、7月18日(月)の祝日は通常授業日とする。

【秋学期】 9月16日(金)～2023年3月31日(金)

授業開始	9月19日(月)
年内授業最終日	12月23日(金)
補講	12月20日(火)～12月21日(水)
冬季休業	12月24日(土)～1月5日(木)
事務閉鎖	12月26日(月)～1月4日(水)
授業再開	1月6日(金)
授業終了	1月23日(月)
定期試験	1月24日(火)、25日(水)、30日(月)、31日(火)
春季休業	2月1日(水)～3月31日(金)
追・再試験	2月22日(水)、24日(金)
卒業式	3月20日(月)

※9月19日(月)、9月23日(金)、10月10日(月)、11月3日(木)、11月23日(水)の祝日は通常授業日とする。

区 分	大学院 現代経営研究科 基礎研究科目	科目名	マーケティング研究	担当者	隈本 純
	開 講 期 間	春学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	必修			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
講義の目的・内容	消費者の行動特性や心理状況を理解することなしに現代マーケティング戦略の成功は不可能であるといわれている。生産者志向な管理マーケティングの諸相は「モノあまり時代」の到来とともに機能低下しはじめ、かわりに顧客との関係性構築のためのマーケティング施策が注目されるようになった。デジタル革命の到来と相まって、近年の新たなマーケティング環境の変化と市場を理解するにはより高度なリタラシーと実践力が求められている。 そこで本科目ではマーケティングの基礎を理解するにとどまらず、ケース分析を通じてより実践的に課題をとらえることにより、確かなエビデンスに基づくソリューションの提案ができるようになることを目的とする。 本科目は4部で構成される。第1部は管理マーケティングの基礎概念を学び、第2部はそれらの応用をケースや演習で復習する。そして第3部で新たなマーケティングの諸相を理解し、第4部で実践的な演習・ケースにより総合的な理解をはかる。ケース分析や演習は講座全体の3～4割程度で、個人あるいは小グループの発表・討議形式ですすめられる。 受講生は本講座を通じて実際のビジネスで市場(消費者)動向を十分に把握した具体的なマーケティング計画策定が実践できるようになってほしい。 なお、第1回目だけはオンライン形式(ライブ)で実施される。また、本科目はSDGs目標の「つくる責任、つかう責任」と関連している。				
到達目標	受講生が基本的なマーケティング概念を体系的に理解しその機会を分析し計画策定できる力を養うこと、そしてケース分析や演習を通じてマーケティング管理能力を開発することを学習目標とする。				
評価の方法・基準	クラス参加・貢献(30%)、演習・ケース分析課題(30%)、期末課題プレゼンテーションとレポート(40%)の3項目により総合的に評価する。 以上を次の評価基準に則り総合的に評価する。 S:90-100 A:80-89 B:70-79 C:60-69 D:60 未満				
参考文献等・テキスト	参考書； 慶應義塾大学ビジネス・スクール編 嶋口充輝他著(2004)「マーケティング戦略」有斐閣 ISBN 978-4641053823 その他の参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。				
と実務経験の関連性の概要					

授 業 計 画

1	主題	ガイダンスと導入授業	
	概要	授業の概要、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイダンスする。導入授業としてマーケティングとは何かについて解説する。この1回目だけはオンライン形式(ライブ)で実施される。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	マーケティングという言葉の意味を事前に調べ、シラバス記載の授業の構成や内容に関して用語等を調査して意味を理解しておく。
	事後学習	2	事後は次回の授業に向けて配布資料等見返し、本科目の講義内容を理解する。
2	主題	市場細分化	
	概要	マーケティング概念と活動、マーケティング環境の変化、市場環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
3	主題	製品戦略	
	概要	製品属性、製品ライフサイクル。ブランディングとブランド拡張	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
4	主題	価格戦略	
	概要	価格設定アプローチ、価格調整政策。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
5	主題	流通戦略	
	概要	流通機能、流通形態、チャネル設計と管理。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
6	主題	コミュニケーション戦略	
	概要	広告、PR、販売促進活動。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
7	主題	ケース分析 A	
	概要	市場環境分析とポジショニング。発表、討議	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
	事後学習	2	受講後は配布資料を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
8	主題	ケース分析 B	
	概要	チャネル開拓とブランディング。発表、討議	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
	事後学習	2	受講後は配布資料を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
9	主題	ウェブとエコロジー	
	概要	インターネットマーケティングの諸相とエコマーケティングのあり方。期末レポート課題提示。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。

10	主題	サービスマーケティング	
	概要	サービスの特性、品質管理、4P 的視座から見たサービス。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
11	主題	外的環境要因と消費	
	概要	消費の状況要因、社会集団の影響(準拠集団、メディア、ロコミ他)と販売戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
	事後学習	2	受講後は配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
12	主題	ケース分析 C	
	概要	消費者理解のためのマーケティングの実践;PART 1。発表、討議	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
	事後学習	2	受講後は配布資料を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
13	主題	ケース分析 D	
	概要	消費者理解のためのマーケティングの実践;PART 2。発表、討議	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
	事後学習	2	受講後は配布資料を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
14	主題	期末課題プレゼンテーション	
	概要	期末課題に関する発表	
		時間	学修内容
	事前学習	2	効果的なプレゼンテーション資料を作成するための事前学習を行うこと。
	事後学習	2	受講後は講師に指摘された点や改善点に関する内容を復習すること。関連する参考書を読み理解を深めること。
15	主題	総括	
	概要	総括。期末レポートの提出	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
	事後学習	2	受講後はこれまでの配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。

区分	大学院 現代経営研究科 基礎研究科目	科目名	アカウンティング研究	担当者	木村 昭興
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			必修		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	Accounting(会計)とは、企業の内部および外部の利害関係者(ステークホルダー)に対し、当該企業が行う経済活動の成果を測定し、伝達する一連のプロセスであると定義することができる。本講義では企業が行う経済活動に関する内容をどのように会計情報として示すのか、その法的根拠(会社法や金融商品取引法など)を理解した上で、貸借対照表、損益計算書あるいはキャッシュフロー計算書といった基本財務諸表の基本構造について、さらに財務諸表などの会計情報からどのような経営に関する情報が得られるのかについて理解を深める。そして、得られた会計情報をどのように分析し、経営上の問題点を把握するのかといった諸課題について、わが国における代表的企業の決算書などを事例として取り上げ、院生間のディスカッションなどを交え、実践的な視点から考察する。 取り上げる主要なテーマは次の通りである。 (1)企業経営における会計の基本的役割 (2)財務会計と管理会計の相違 (3)会計法規と会計制度 (4)貸借対照表 ～資産と負債および純資産の評価～ (5)損益計算書 ～収益と費用および利益の認識と測定～ (6)損益計算書とキャッシュフロー計算書の相関関係 (7)財務諸表分析① ～収益性および安全性～ (8)財務諸表分析② ～生産性および成長性～				
到達目標	(1)企業における会計の役割や機能について理解する。 (2)会社法や金融商品取引法などの会計法規と会計制度の関係について理解する。 (3)財務会計と管理会計の相違や各々の役割について理解する。 (4)貸借対照表の基本構造ならびに「資産と負債および純資産の評価」について理解する。 (5)損益計算書の基本構造ならびに「収益・費用および利益の認識と測定」について理解する。 (6)損益計算書とキャッシュフロー計算書の違いについて理解を深める。 (7)財務諸表分析の基本技法について理解する。 (8)近年の会計制度の動向について理解を深める。				
評価の方法・基準	(1)評価方法 授業への貢献(60%)、演習課題(40%) (2)評価基準 S:90-100 A:80-89 B:70-79 C:60-69 D:60 未満				
参考文献等	(1)テキスト 使用しない。 (2)参考文献 山根節・太田康広・村上祐太郎『ビジネス・アカウンティング(第4版)』中央経済社、2019 年 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門 第 13 版』有斐閣、2020 年。 (3)参考資料 授業時にプリントを配布する。 ①各社『有価証券報告書』 ②日本経済新聞および主要経営・経済関係誌(週刊東洋経済、日経ビジネス、週刊エコノミスト、企業会計)などの資料を適宜使用する。				
実務経験の概要と授業の関連性					

授 業 計 画			
1	主題	企業経営と会計	
	概要	企業経営における会計の役割や機能について、実践的視点から考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
2	主題	財務会計と管理会計	
	概要	財務会計と管理会計の相違点について ①財務会計の機能と役割 ②管理会計の機能と役割	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
3	主題	会社法および金融商品取引法の諸規程	
	概要	会社法や金融商品取引法と会計制度について ①会社計算規則 ②財務諸表規則	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
4	主題	貸借対照表の基本構造(1) ①(資産に関する勘定科目と評価)	
	概要	貸借対照表の基本構造について1 ①資産に関する勘定科目 ②資産の評価について	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
5	主題	貸借対照表の基本構造(2) ②(負債及び純資産に関する勘定科目)	
	概要	貸借対照表の基本構造について2 ①負債に関する勘定科目 ②純資産に関する勘定科目	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
6	主題	損益計算書の基本構造(1) ①(収益の認識と測定)	
	概要	損益計算書の基本構造について1 ①収益の認識と測定 ②収益に関する勘定科目	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
7	主題	損益計算書の基本構造(2) ②(費用の認識と測定)	
	概要	損益計算書の基本構造について2 ①費用の認識と測定 ②費用に関する勘定科目	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
8	主題	棚卸資産と売上原価	
	概要	棚卸資産と売上原価の関係について ①棚卸資産の評価 ②売上原価の計上	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。

9	主題	固定資産と減価償却	
	概要	固定資産と減価償却について ①固定資産の種類 ②減価償却の方法について	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
10	主題	「負債及び純資産の部」について	
	概要	「負債及び純資産の部」について理解する ①負債の意味と勘定科目 ②「純資産の部」を構成する勘定科目	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
11	主題	キャッシュフロー計算書の基本構造	
	概要	キャッシュフロー計算書の基本構造について ①営業活動によるキャッシュフロー ②投資活動によるキャッシュフロー ③財務活動によるキャッシュフロー	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
12	主題	財務諸表分析(1) ①収益性分析 ②安全性分析	
	概要	財務諸表の分析方法について理解する1 ①収益性を示す経営指標 ②安全性を示す経営指標	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
13	主題	財務諸表分析(2) ①生産性分析 ②成長性分析 ③総合評価	
	概要	財務諸表の分析方法について理解する2 ①生産性を示す経営指標 ②成長性を示す経営指標 ③経営分析の総合評価	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
14	主題	財務諸表分析(3) 一事例研究(1)ー	
	概要	事例研究 ①財務諸表分析を通じた企業評価 ②具体的企業の分析	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。
15	主題	財務諸表分析(4) 一事例研究(2)ー	
	概要	総事例研究 ①財務諸表分析を通じた企業評価 ②具体的企業の分析	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時に配布したプリントを熟読すること。

区分	大学院 現代経営研究科 基礎研究科目	科目名	ファイナンス研究	担当者	富田 洋介
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			必修		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	講義内容 本講義では資産運用やコーポレート・ファイナンスの分野に焦点を当て、基本理論の習得を目指す。ファイナンスは運用会社や企業の財務部に就職した際に、根幹を成す学問である。習得する内容は高度ではあるが、初学者であっても理解しやすい丁寧な講義を心がける。ファイナンスの基礎には経済学的な知識が必要となるため、経済学の復習をお願いしたい。 本年度の本講義はオンライン(ライブ)にて行われる。 講義の特色 基本的にテキストを用いて講義を進める。テキストの精読は学生の課題とし、講義では疑問点や重要点について解説する。 履修上の注意 課題については丁寧にこなしてほしい。やむを得ず欠席する場合には必ず担当教員へ連絡すること。				
到達目標	1)ファイナンスの基礎について習得し、その根本理論を習得すること。 2)ビジネスにおけるファイナンスについてその基礎部分は理解をすること。 3)ファイナンスにかかわる簡単な数理計算ができるようになること。				
評価の方法・基準	評価方法 講義への積極性 50%(課題および平常点)＋期末レポート 50% 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 評価基準 下記の基準により評価する 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献等	テキスト 『ビジネスマンのためのファイナンス入門』、山澤光太郎、2004 年、東洋経済新報社				
と実務経験の関連性	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

授 業 計 画			
1	主題	イントロダクションとファイナンスの世界について	
	概要	講義の進め方、ファイナンスの概略について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	主題	キャッシュフローについて	
	概要	企業活動とキャッシュフローについて解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	主題	投資に関する理論	
	概要	割引現在価値などについて学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	主題	証券投資に関する理論と市場の効率性Ⅰ	
	概要	ポートフォリオ理論について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	主題	証券投資に関する理論と市場の効率性Ⅱ	
	概要	資本資産評価モデル(CAPM)について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	主題	企業価値評価	
	概要	加重平均資本コストについて解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	主題	企業の最適資本構成と配当政策Ⅰ	
	概要	MM 理論を中心に学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	主題	企業の最適資本構成と配当政策Ⅱ	
	概要	ペッキングオーダー理論と配当政策を中心に学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

9	主題	資本市場に関する理論と実務Ⅰ	
	概要	株価の決定に関する理論を中心に解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	主題	資本市場に関する理論と実務Ⅱ	
	概要	債券価格の決定理論や金利の期間構造について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	主題	デリバティブの理論と実際Ⅰ	
	概要	先物取引とスワップ取引を中心に解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	主題	デリバティブの理論と実際Ⅱ	
	概要	オプションについて学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	主題	コーポレート・ガバナンスⅠ	
	概要	エージェンシー理論について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	主題	ジャンク債について	
	概要	投資不適格債の需要について議論する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	主題	最近のトピックス	
	概要	天候デリバティブ、自己資本比率規制、行動ファイナンスについて触れる。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基礎研究科目	科 目 名	人的資源研究	担 当 者	横山 和子
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			必修		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	人的資源管理の基本的な考え方やその仕組みについて学ぶ。企業等に雇用されて働く人間を人的資源と呼ぶことは 2000 年代以降わが国においても定着してきたが、その特性や制約を踏まえた獲得や活用の考え方や方法が求められる。本講義においては、経営資源としての人的資源の特殊性を理解し、活用の仕組みについて学ぶ。また、産業構造や就業意識も変化するなかで、多様な人材をマネジメントするための企業の取り組みを知り、課題などを検討する。 授業の進め方は、講義に加え、事前学習「演習問題」を中心に課題討議を行う。また、企業における実践的な事例を随時紹介する予定であり、そのバックグラウンドや意義を探求する。 取り上げるテーマは次のとおりである。 (1)人的資源管理の位置づけ(基礎理論、人間モデル、組織設計) (2)人事制度 (3)評価と報酬 (4)人材育成 (5)労使関係 (6)人的資源の多様化にかかる現代的トピックス 本科目は対面形式で行う。				
到達目標	(1)人的資源管理論の基礎理論を理解できるようになる (2)人的資源の特殊性を理解できるようになる (3)人的資源の採用から退職までのフローを理解できるようになる (4)人的資源に対する評価の考え方を理解できるようになる (5)多様な人的資源の活用の意義と課題を理解し、自身の考えを言語化・文章化することができるようになる				
評価の方法・基準	(1)評価の方法 ディスカッションなどへの授業参加 20%、 小課題 30%、期末レポート 50%により評価する。 (2)評価基準 S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献等	(1)テキスト 上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ 人的資源管理〔新版〕』（有斐閣、2019 年、2,800 円＋税）				
実務経験の概要と授業の関連性	国際公務員としての実務経験に基づき、多様な職場での仕事の進め方を展開する。				

授 業 形 態			
1	主題	人的資源管理とは: 人的資源管理の役割を考える	
	概要	授業の進め方、事前・事後学習について解説する。 人的資源管理の基本と全体像について考える。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人的資源、マネジメント、人的資源管理、人事労務管理、戦略的人的資源管理
	事後学習	2	テキスト 24 ページ、演習 2 日本企業のウェブサイトアクセスし、人のマネジメントを扱う部署の呼称で「人事部」以外にどういった呼称があるか調べ、レポートとして提出すること。
2	主題	人間モデルと組織行動: 組織は人をどのようにつくるのか	
	概要	人的資源管理の対象である人間の捉え方を理解し、それぞれの人間観に基づく管理の仕組みについて考える。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人間モデル、経済人モデル、科学的管理法、社会人モデル、ホーソン実験、自己実現モデル、動機づけ
	事後学習	2	テキスト 50 ページ、演習 1 経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデルのそれぞれにおいて、「賃金」という要素がどのように位置づけられているか整理し、レポートとして提出すること。
3	主題	組織設計: 人の働く組織をどのようにつくるか	
	概要	人的資源管理を有効なものとするための組織的な仕組みや規則などを概観し、仕事の進め方とマネジメントのあり方について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 組織設計、組織構造、分業、調整、権限、管理の幅、職務設計
	事後学習	2	テキスト 72 ページ、演習 2 あなたの所属しているサークル活動、またはアルバイトの職場で、どのような役割分担(分業)があるか調べ、それぞれの役割分担が組織全体でどのように調整されているか、相互のコミュニケーション、権限関係、公式化の 3 点に着目しレポートとして提出すること。
4	主題	採用・配置: 組織は人をどのように雇い入れるのか	
	概要	新卒者・転職者の採用や配置の問題を取り上げ、人と職務のマッチングについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人材フロー、コンピテンシー面接、インターンシップ、出向と転籍、タレント・マネジメント、職種別採用、社内公募制
	事後学習	2	テキスト 99 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の採用や移動の方法を調べ、組織や個人にとって どういったメリットやデメリットがあるか調べ、レポートとして提出すること。
5	主題	キャリア開発・人材育成: 組織は人をどのように育てるのか	
	概要	企業内人材育成を体系的に理解する。また、コーチングやメンタリングなどの手法について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 OJT、Off-JT、自己啓発、自律型キャリア、サクセッション・プラン、コーチング
	事後学習	2	テキスト 124 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の人材育成の仕組みを調べ、短期的な業績と長期的な業績にそれらがどのように貢献しているかを分析し、レポートとして提出すること。
6	主題	評価・考課: 組織は仕事の結果をどのように評価するのか	
	概要	評価者と被評価者の両面から評価の問題を取り上げる。評価の基準を知り、被評価者の納得性を高めるための取り組みについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、評価エラー、手続き的公正、多面評価、パフォーマンス・マネジメント
	事後学習	2	テキスト 151 ページ、演習 1 人事評価の基準の種類と特徴を整理し、最近の日本企業で人事評価の基準がどのように変化しているかについて、レポートにして提出すること。

7	主題	昇進・昇格:組織は人をどのように処遇するのか	
	概要	職能資格制度をベースとした人事制度について学ぶ。また、役割等級制度など比較的新しい制度への理解を深める。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 職能資格制度、資格、昇格、昇進、重層型昇進構造、職務等級制度、役割等級制度、ファスト・トラック
	事後学習	2	テキスト177ページ、演習1 年功型労務管理が行われていた頃の昇進の在り方について、強味と弱みを整理し、レポートとして提出すること。
8	主題	賃金・福利厚生:組織は人にどのような報酬を与えるのか	
	概要	賃金体系を理解し、近年における成果の捉え方とその問題点について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 報酬、賃金形態、賃金体系、役割級、カフェテリア・プラン、グローバルで統一かした仕事基準賃金
	事後学習	2	テキスト205ページ、演習2 アルバイト先や勤務先の賃金体系を調べ、どのようなメリットとデメリットがあるか分析し、レポートとして提出すること。
9	主題	安全・衛生:組織は人の安全と健康をどのように守っているのか	
	概要	OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の構築に向けた視点とメンタルヘルスの取り組みについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 就業条件管理、リスクマネジメント、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、メンタルヘルス、ハラスメント
	事後学習	2	テキスト228ページ、演習2 「健康経営銘柄」選定企業 (http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcaare/kenko_meigara.html) に中から、自分が関心のある企業を選び、その取り組みをまとめ、レポートとして提出すること。
10	主題	労使関係:組織は労働組合とどのように関わるのか	
	概要	集団的労使関係と個別的労使関係の現状と課題について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 労使関係と労資関係、労働三権、企業別組合、労資協議制、労資関係の個別化
	事後学習	2	テキスト250ページ、演習1 日本の労働組合の特徴と直面している課題について論じ、レポートとして提出すること。
11	主題	退職:組織は辞めていく人とどのように関わるのか	
	概要	定年制と雇用調整の現状と課題について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 定年制、解雇、早期退職、雇用調整、リテンション・マネジメント
	事後学習	2	テキスト275ページ、演習1 定年制の機能とその現状を調べ、レポートとして提出すること。
12	主題	女性労働・高齢者雇用:多様化する働く人々を組織はどう管理するか	
	概要	企業組織における人材の多様性を活かすための取り組みとその課題について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 女性労働、男女雇用機会均等法、M字型労働曲線、ポジティブ・アクション、高齢社会、高年齢者雇用、継続雇用制度
	事後学習	2	テキスト306ページ、演習1 日本企業における女性および高齢者のマネジメントの方向性について調べ、レポートとして提出すること。

13	主題	非正規雇用:多様化する雇用形態を組織は同管理するか	
	概要	雇用形態の多様化の現状を理解し、企業活動における活用とその課題について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 雇用形態、均等処遇、人材ポートフォリオ、限定正社員
	事後学習	2	テキスト 331 ページ、演習 1 無限定正社員、限定正社員、非正社員の違いを説明し、非正社員の種類と特徴を整理し、レポートとして提出すること。
14	主題	裁量労働・在宅勤務:多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するか	
	概要	人的資源管理における時間と場所の概念を理解し、自律的な働き方の可能性と課題について学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 法定労働時間、所定労働時間、フレックス・タイム制、裁量労働制、ICT,在宅勤務
	事後学習	2	テキスト 358 ページ、演習 3 労働者が自分で労働時間や働く場所を決められることは企業や個人にとって良いことでしょうか。プラス面とマイナス面を考察し、レポートにまとめ提出すること。
15	主題	レポート発表	
	概要	レポート課題について発表する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表レポート、プレゼンテーション準備。
	事後学習	2	他の受講生の発表、自己の発表の振り返りを行う。

区分	大学院 現代経営研究科 基礎研究科目	科目名	経営学手法研究	担当者	木川 大輔
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			必修		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	経営学の研究では、主として 2 つの研究手法が用いられている。1 つが定性的な事例研究（定性研究）であり、もう 1 つが統計的な手法を用いた仮説検証型の研究（定量研究）である。無論、どちらかが一方的に優れた研究手法というわけではなく、研究の目的や対象によって使い分けられるのが理想的である。しかし他方で、統計を用いた研究手法は、文系の大学院生には「やや敷居が高い」というのが現実である。そこで本講義では、できるだけ難解な数式を避けながらも、統計分析に必要な因果推論やソフトウェアの操作方法、分析結果の解釈などを、ソフトウェアの操作を交えつつ、演習形式で学ぶことで、統計分析の基本的な考え方を身につけることを目的とする。 受講にあたっては、Microsoft 社の EXCEL をある程度不自由なく操作できる程度のコンピュータスキルを有していることが望ましい。				
到達目標	1) 定性研究、定量研究に共通して求められる因果推論の概念を理解し実践できるようになる 2) 定量研究を構成する分析手法とそれを実現するツールを、自らの研究目的に応じて使いこなせるようになる 3) 既存文献の分析方法、分析結果に対して批判的な検討ができるようになる				
評価の方法・基準	授業への貢献〔40%〕、演習課題〔60%〕 S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献等	テキスト：配布資料に基づいて講義を進める 参考書： 中室牧子・津川友介「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社、2017」 須藤康介・古市憲寿・本田由紀『文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版、2012				
と実務経験の関連概要					

授 業 計 画			
1	主題	原因を明らかにするための説明の枠組みとは何か	
	概要	原因を明らかにするための説明の枠組みとは、その他 講義スケジュール、成績評価についての説明など	
		時間	学修内容
	事前学習	2	予め配布するレジュメを読み込む。
	事後学習	2	授業内容の復習を行う。
2	主題	因果推論①	
	概要	社会科学における仮説検証と変数の操作化について	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
3	主題	因果推論②	
	概要	共変関係、因果関係の向きの検討	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
4	主題	因果推論③	
	概要	変数の影響のコントロール、分析単位のバイアスの検討	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
5	主題	統計分析ソフトウェアの基礎	
	概要	SPSS チュートリアル、データセット、記述統計についての説明を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
6	主題	定量分析演習①(クロス集計と相関分析)	
	概要	クロス集計と相関分析について解説した後、教員が配布するサンプルデータを用いた演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
7	主題	定量分析演習②(分散分析)	
	概要	分散分析の概要、実施手順、中止事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
8	主題	定量分析演習③(回帰分析、重回帰分析)	
	概要	回帰分析、重回帰分析の概要、注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
9	主題	定量分析演習④(交互作用を用いた重回帰分析)	
	概要	交互作用とは何か、および交互作用を用いた検証を行う際の注意点について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。

10	主題	定量分析演習⑤(ロジスティック回帰分析)	
	概要	二項ロジスティック回帰分析の概要、注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
11	主題	定量分析演習⑥(因子分析)	
	概要	因子分析の概要、注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
	事後学習	2	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
12	主題	定量分析を用いた論文の読み解き方	
	概要	著名な学術雑誌に掲載された論文のうち、定量分析が用いられている論文を1～2編取り上げ、分析結果を読み解く演習を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布する論文を予め指定するポイントを踏まえながら熟読する。
	事後学習	2	授業で取り扱った内容を復習する。
13	主題	定量分析演習課題①	
	概要	複数の課題テーマから、任意の課題(研究の問題意識)を選択し、データセットを用いて、仮説導出、変数の操作化および分析モデルの検討を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	予め配布する複数のテーマに目を通し、取り組む課題を決める。
	事後学習	2	授業で指定された課題に取り組む。
14	主題	定量分析演習課題②	
	概要	前回までに導き出された分析結果を踏まえ、結果の解釈、バイアスの検討、分析の限界など発表に備えたディフェンスの準備を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表の準備を行う。
	事後学習	2	発表時に指摘された箇所の改善を行う。
15	主題	定量分析演習課題③	
	概要	分析結果のプレゼンテーション、および質疑応答を行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表の準備を行う。
	事後学習	2	指摘事項の振り返りを行う。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	経営管理研究	担 当 者	赤尾 充哉
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	経営管理を研究するための基礎となる企業理論を学ぶ。				
到達目標	企業理論を理解し、現実の経営管理の問題を理論的に考察できるようになる。 授業は原則的にリアルタイム方式のオンライン講義となる。				
評価の方法・基準	授業への参加度 50%、発表の出来 50% S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献等	テキスト:ダウマ＝スクルーダー『組織の経済学入門』文真堂、2007 年 その他、受講者の関心に従って、適宜紹介する				
と実務経験の関連性要					

授 業 計 画

1	主題	ガイダンス・導入授業	
	概要	シラバスに基づいて学習内容を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	自身の関心領域について整理する
	事後学習	2	自身の関心領域と本講義の関連性を整理する
2	主題	市場と組織	
	概要	市場と組織という2つの制度の違いを理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
3	主題	市場	
	概要	市場のメカニズムについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
4	主題	情報	
	概要	市場と組織の情報問題について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
5	主題	ゲーム理論	
	概要	ゲーム理論から得られる示唆について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
6	主題	ゲーム理論	
	概要	ゲーム理論から得られる示唆について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
7	主題	企業の行動理論	
	概要	組織行動の理論を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
8	主題	エージェンシー理論(1)	
	概要	エージェンシー理論による組織の説明を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
9	主題	エージェンシー理論(2)	
	概要	エージェンシー理論による組織の説明を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
10	主題	取引費用の経済学(1)	
	概要	取引費用理論による組織の説明を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する

11	主題	取引費用の経済学(2)	
	概要	取引費用理論による組織の説明を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
12	主題	戦略経営への経済学の貢献	
	概要	経済学のアプローチから戦略を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
13	主題	組織の経済学	
	概要	組織の経済学を包括的に理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
14	主題	組織の経済学	
	概要	組織の経済学を包括的に理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書を精読する
	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
15	主題	まとめ	
	概要	学習した内容を再度検討する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	各自の研究に沿って、14回までに学んだ事項を整理する
	事後学習	2	指摘議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する

区分	大学院 現代経営研究科 基幹研究科目	科目名	経営戦略研究	担当者	李 新建
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	本講義では、経営戦略に関する基本的なアプローチ・枠組みを深く理解し、「戦略的」なものの考え方を身に付けることを目的とする。経営戦略には、SWOT 分析、PPM 分析、バリューチェーン分析などの戦略策定のツールが多数開発されているが、本講義では、それらの具体的なツールより、企業経営を成功させるための基本的な視点と理論的な枠組みの習得に重点をおく。 本講義の内容は大きく理論文献の学習と企業ケースの研究という2つの部分により構成されている。理論文献の学習は、経営戦略のポジショニング・アプローチ、資源アプローチ、学習アプローチ、ゲーム・アプローチ、一般競争戦略と全社戦略、グローバル統合と現地適応の論理、プラットフォーム戦略などの内容を勉強する。企業ケースの研究は、日本の代表的な企業を中心事例として取り上げるが、受講生の関心に合わせて外国企業の事例をも取り上げる予定である。事例の選別は別途授業中に指示する。 発表担当者は、配布された教材・資料だけではなく、率先して関連文献をサーベイし、要領よく整理して説明することが求められている。発表を担当していない者は単なる「聞き手」になることのないように、事前に予習ノートを準備し、必ず授業中に質問をすることが求められる。 本科目はライブ・オンライン授業を実施する予定である。				
到達目標	以下の諸点が本科目の到達目標である。 1. 理論文献の輪読・討議を通じて、経営戦略の基本的なアプローチ・理論的枠組みを深く理解することができるようになる。 2. 経営戦略の理論の進化に関する考察を通して、学術研究の神髄・道筋を会得することができるようになる。 3. ケース研究を通じて経営戦略のリアルな課題とその対策に対する理解を深めることができるようになる。 4. 経営戦略の「論理」と「実践」の融合を図ることができる。				
評価の方法・基準	発表、議論への参加度合い及び期末レポートに基づいて評価する。 配点は、レジュメによる発表・予習を 40%、議論への参加度などを 30%、最終レポートを 30%とする。 評価は 60%以上を合格とし、「S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満」とする。				
参考文献等	必要に応じてプリントを配布する。 参考文献 マイケル・ポーター 『競争の戦略』ダイヤモンド社 1995 年。 青島矢一、加藤俊彦 『競争戦略論』東洋経済新報社 2012 年。 H. Mintzberg, J. Lampel & B. Ahlstrand (原著), 斎藤嘉則等 (翻訳) 『戦略サファリ』東洋経済新報社 1999。 浅川和宏 『グローバル経営入門』日本経済新聞出版社 2003 年。 Michael E. Porter, Competitive Strategy, New York: Free Press, 1998。 G. Saloner, J. Podolny & A. Shepard (原著), 石倉洋子 (翻訳) 『戦略経営論』東洋経済新報社 2002 年。				
と実務経験の関連概要					

授 業 計 画			
1	主題	経営学と経営戦略論	
	概要	経営学における経営戦略論の位置づけ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前は関心する企業の経営動向を調べておく。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
2	主題	戦略とは何か(1)	
	概要	戦略の5つのP	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
3	主題	戦略とは何か(2)	
	概要	戦略論の基本的アプローチ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
4	主題	ケース研究	
	概要	経営戦略の諸論理を学ぶ前の予備的なケース研究。検討するケースは授業中に別途指示する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
5	主題	ポジショニング・アプローチ(上)	
	概要	ポジショニング・アプローチの基本的発想と枠組み	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
6	主題	ポジショニング・アプローチ(下)	
	概要	ポジショニング・アプローチの応用と問題	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
7	主題	事業競争の一般戦略	
	概要	3つの一般戦略と「二兎を追う」戦略の可能性	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
8	主題	全社戦略	
	概要	全社戦略の考え方と日本企業の全社戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
9	主題	資源アプローチ	
	概要	資源アプローチの理論的背景、内容、ポジショニング・アプローチとの比較	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

10	主題	学習アプローチ	
	概要	組織学習と組織間学習	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
11	主題	ゲーム・アプローチ	
	概要	ゲーム・アプローチのポイント、価値相関図とパーツ(PARTS)フレームワーク	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
12	主題	グローバル経営戦略	
	概要	グローバル統合とローカル適応の論理	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
13	主題	プラットフォーム戦略	
	概要	プラットフォーム企業の成長の論理	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
14	主題	ケース研究	
	概要	経営戦略の諸論理を学んだ後の応用的ケース研究。検討するケースに関しては授業中に別途指示する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
15	主題	総合発表と期末レポートの提出	
	概要	期末レポートをまとめ、総括発表を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末レポートをまとめておく。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	人的資源戦略研究	担 当 者	横山 和子
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の 目的・ 内容	目的 本科目の目的は、人的資源戦略について、マクロ的およびミクロ的視点から、企業の人的資源戦略に関する理解を深めることである。国際的に活躍することを志向する院生、企業の人的資源管理・教育分野を志向する院生、人材開発・派遣企業・シンクタンク等に就職を希望する院生、経営コンサルタントとして活躍を志向する院生が受講の対象となる。上記以外の分野で活躍を志向する院生についても、今後のビジネスキャリアにおいて、就職後のキャリア形成、人的資源管理に関わる事項は自身にとって重要な課題になる。それゆえ、将来のキャリア開発効果は大きいと考えられる。 内容 上記の内容を踏まえ、次の事項を中心において、講義・討議方式を主体に、事例研究を交えて指導する。 1. 人的資源戦略の検討視点と検討事項に関する事項 2. 経営戦略と人材戦略に関する事項 3. 経営者等個人人材の育成方策に関する事項 4. ビジネス・パーソンのキャリア開発に関する事項 5. グローバルなキャリア開発に関する事項 授業では、テキストの指定された箇所を学生がクラス内で研究発表を行う形式で授業を行う。学生の研究発表は、受講学生数にもよるが、学期内に 1 回～2 回程度の予定である。詳細は第 1 回目の授業時に行う。 本講義はオンライン形式(ライブ)にて行う。				
到達 目標	次の目標に到達できるよう教育・指導を行う。 1. 就職後、人材開発専門スタッフとして成長するために必要な基礎・専門的能力を習得できるようになる 2. 企業等組織における人的資源戦略について、組織の要請・上司の指示・助言・指導等を理解し、人的資源戦略の立案や運用を行うための基礎的・専門的能力を習得できるようになる 3. ビジネス・パーソンのキャリア開発を理解し、専門的視点から助言・指導するために必要な基礎・専門的能力を習得できるようになる 4. 海外の企業組織の仕組みを理解し、専門的視点から部下を指導・助言することができる能力を習得できるようになる 5. 上記を通じて、企業・自治体等の人材開発部門、海外の組織、人材開発・派遣会社・シンクタンク等において、人的資源管理(HRM: Human Resource Management)の専門スタッフとして、成長し活躍するための能力を習得できるようになる				
評価の 方法・ 基準	評価基準:クラス参加 20%、小課題 20%、研究発表 20%、期末レポート 40%とし、60%以上を合格とする 評価は【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考 文 献 等	「テキスト」:『人的資源管理の力』（白木三秀編著、文眞堂、2019 年、2,700 円＋税）				
実務 経験 の 概 要 と 授 業 の 関 連 性	国際公務員としての実務経験に基づき、特に新興国に重点を置き海外勤務の有用性を戦略的人的資源管理の側面から講義を行う。				

授 業 計 画			
1	主題	人的資源戦略研究 とはなにか	
	概要	本科目のねらい、授業の進め方、本科目と経営科目との関係、人的資源戦略の検討視点・領域・研究方法等を中心に説明し、質疑・意見交換を行う。授業の効果的進め方についての意見交換も行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人的資源管理、マネジメント、戦略的人的資源管理
	事後学習	2	人的資源戦略管理のテーマで、最も興味を持てる分野を一つ選択し、その理由をレポートにまとめ提出すること。
2	主題	戦略と人的資源管理	
	概要	経営戦略と人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、学生と共に考察を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 ポジショニング・ベースの競争戦略、リソース・ベース・ビューの競争戦略、ベスト・プラクティスアプローチ、コンティンジェンシー・アプローチ、多角化戦略
	事後学習	2	自動車メーカーのSUZUKIは小型自動車事業を成功させるためにどのような人材を募集したと思うか。自分の考えを展開させながらレポートにまとめ提出すること。
3	主題	採用と導入訓練	
	概要	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、考察し、学生と討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	OJT, Off-JT のメリット・デメリットを調べる。授業時に確認を行う。
	事後学習	2	「日本型採用方式」と「海外の採用方式」のメリットとデメリットを整理し、レポートとして提出すること。
4	主題	業績管理とコンピテンシー	
	概要	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、考察する。学生と討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の戦略の違いを説明できるようにしておくこと。授業時に確認を行う。 会社戦略 (corporate strategy), 事業戦略 (business strategy), 機能別戦略 (functional strategy)
	事後学習	2	職能資格制度、コンピテンシー・マネジメントについて概説し、レポートとして提出すること。
5	主題	評価と動機付け	
	概要	従業員の評価と動機づけのメカニズムを中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら考察する。事例を学生と討議する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、多面的評価
	事後学習	2	マズローの欲求 5 段階説、ハーツバーグの欲求 2 要因説を実際の事例を使いながら説明し、レポートとして提出すること。
6	主題	報酬管理	
	概要	欧州を中心に世界各国で普及している職務ベース賃金制度と職務遂行能力や属人的要素の人をベースとする日本型賃金制度の比較を行い、両制度のメリット・デメリットの検討を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の意味を調べる。授業時に確認を行う。 職務ベース賃金制度、日本型賃金制度
	事後学習	2	マーケットペイの具体例（例：マーサー、日本総報酬サーベイ 2020 年、 https://www.mercer.co.jp/ ）を調べ、レポートとして提出すること。
7	主題	リーダーシップ	
	概要	リーダーシップ研究における特性研究、行動研究、状況適応理論への発展過程を紹介し、リーダーに求められる要件について討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	行動理論の中の、ミシガン大学研究、オハイオ州立大学研究を調べる。授業時に確認を行う。
	事後学習	2	リーダーに求められる要件を考えレポートとして提出すること。

8	主題	キャリア形成	
	概要	キャリアとは広義では人間の生涯を通したさまざまな経験の連鎖を示し、狭義では仕事の経験によって形成される経歴や仕事生活パターン・意味づけを意味する。授業では広義のキャリア形成について講義を行う。学生と討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	スーパーのライフ・ステージ論の各段階について調べる。授業時に確認を行う。成長段階、探索段階、確立段階、維持段階、下向段階
	事後学習	2	スーパーの分類に従えば、受講学生は人生の探索段階にいる。希望で構わないので、将来どのように確立段階、維持段階、下向段階を過ごしたいか、自身のキャリア計画を作成し、レポートとして提出すること。
9	主題	グローバル人材開発	
	概要	経済・人材のグローバル化が進む中、なぜ自律型のキャリア計画が必要であるかについて事例を交えながら説明を行う。学生と討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	パールムッターの多国籍企業発展論(本国志向型、現地志向型、世界志向型)を調べる。授業時に確認を行う。
	事後学習	2	日本企業におけるグローバル人材育成に向けての課題についてレポートとして提出すること。
10	主題	ダイバーシティとインクルージョン	
	概要	女性と外国人労働者を労働力として活用することは人口減少を続ける日本経済にとり重要な施策である。授業ではダイバーシティ・マネジメントの現況を日本と海外の事例から検討を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 M字型曲線、ポジティブアクション
	事後学習	2	日本の生産人口の減少、対応策についてダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの面からレポートを作成し提出すること。
11	主題	ワーク・ライフ・バランス	
	概要	日本でのワーク・ライフ・バランスの現況をコロナ禍の前と後でどのように変化しているか、データを使いながら講義を行う。その後、学生と討議を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 女性のWLB, 男性のWLB
	事後学習	2	高齢化社会への対応策として、女性活用、高齢者活用、外国人活用について調べ、レポートとして提出すること。
12	主題	人事部の機能と役割	
	概要	日本企業における人事部の役割と機能について講義を行う。特に留学生向けに、海外の企業の人事部と日本企業の人事部の役割の違いについて言及する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	何故、日本の大企業は欧米企業に比べ人事部が大きな影響力を持っているかについて調べる。授業時に確認を行う。
	事後学習	2	日本企業で人事担当者になる場合と欧米企業で人事担当者になる場合の職務経験の違いについてレポートにまとめ提出すること。
13	主題	労使関係と人的資源管理	
	概要	集团的労使関係と個別的労使関係の現状と課題について講義を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 集团的労使関係、個別的労使関係、労資と労使の違い
	事後学習	2	日本の労働組合直面している課題をレポートにまとめ提出すること。
14	主題	セーフティネットと人的資源管理	
	概要	予期せぬ出来事に対応するセーフティネットの役割と機能について講義を行う。学生との討議も行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 社会保障制度、健康保険、年金保険、介護保険、労災保険、
	事後学習	2	アジア諸国での社会保障制度について調べレポートにまとめ提出すること。
15	主題	学生の研究発表	
	概要	人的資源戦略に関するテーマで学生が研究発表を行うと共に、研究レポートを提出する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	研究発表の準備、レポートの執筆
	事後学習	2	他の受講学生の研究発表に基づき学生は振り返りを行う。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	財務会計研究	担 当 者	富田 洋介
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	講義内容 本講義では企業の財務担当者はどのようなことを目標に活動しているのかを適切に理解する。財務会計が理解できると企業活動の結果が財務諸表等に現れるため経営の現状把握などについて理解が深くなる。したがって、本講義では習得する内容は高度であるものの、初学者にも理解しやすく解説するつもりである。 本年度の本講義はオンライン(ライブ)にて行われる。 履修上の注意 本講義はテキストを通読する形で進める。テキストの精読については学生への課題であるが、講義内では疑問点や重要なポイントについて解説していく。やむを得ず欠席する場合には、担当教員へ必ず連絡をすること。 授業計画については学生の理解度によってフォローアップを行うため変更の可能性がある。				
到達目標	1)企業の財務諸表について学生自身の考えによって評価できること。 2)財務会計の基本的な考え方とプロセスを習得すること。 3)企業財務について資本コストと企業価値の両面の関連性を理解すること。				
評価の方法・基準	評価方法 講義への積極性(平常点および課題)50%＋期末レポート50% 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 評価基準 下記の基準によって評価する。 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献等	テキスト 『財務会計・入門 (第14版)』、桜井久勝、須田一幸、2021年、有斐閣アルマ				
実務経験の関連概要	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

授 業 計 画

1	主題	イントロダクション・導入授業	
	概要	講義の進め方と財務会計の概略について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	主題	会計の種類と役割	
	概要	財務会計の役割について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	主題	財務会計のシステムと基本原則	
	概要	複式簿記の構造や資産評価の原則を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	主題	企業の設立と資金調達	
	概要	企業形態としての株式会社を中心に学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	主題	仕入と生産活動	
	概要	営業循環や人件費について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	主題	販売活動	
	概要	売上げに関する計測と財務諸表の関連性を解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	主題	設備投資と研究開発	
	概要	減価償却、研究開発、無形固定資産について議論される。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	主題	資金管理と運用	
	概要	資金運用(短期)(長期)について解説する。金融における短期とは1年以内の取引を指し、長期とは1年を超える取引のことを指す。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

9	主題	国際活動	
	概要	輸出入や為替について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	主題	税金と利益処分	
	概要	企業財務と税の関係について議論される。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	主題	財務諸表の作成と公開	
	概要	ディスクロージャーについて議論される。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	主題	企業集団の財務報告	
	概要	連結財務諸表の重要性について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	主題	財務諸表による経営分析	
	概要	財務分析指標について考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	主題	金融機関と一般事業会社	
	概要	金融機関と一般事業会社の相違について確認し議論する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	主題	財務会計と事例	
	概要	テキストの事例に基づいて考え方を整理する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	大学院 現代経営研究科 基幹研究科目	科目名	管理会計研究	担当者	木村 昭興
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	講義の目的： 企業の経営管理者は、企業の目的を達成するために、さまざまな計画を策定し、その計画をもとに経営管理を行っている。 管理会計は、この経営管理に役立つ会計情報を作成し、企業の経営管理者に提供することを目的にしている。 管理会計は、企業の財政状態と経営成績を表す財務会計と対比され、過去の財務情報や非財務情報を活用して、企業の経営活動を計画し、その計画をもとに統制をすることで、企業の経営管理にとって重要な役割を担っている。 本講義では、具体的な企業の事例を取り上げ、実務的な観点から企業の経営管理に関する諸問題を管理会計の視点から紐解いていきたいと考えている。 講義内容： テキストを中心に補助プリントを用いた講義に加え、受講生の報告を中心に進める。管理会計は、財務情報を基礎に体系化された経営管理のための会計システムである。企業を取り巻く現代社会が日々変化しており、経営管理の方法も劇的に変化している。本講義では、学問としての管理会計の基礎知識を身につけるだけでなく、実際のビジネス社会を管理会計の視点で考える力を身につけるように努めたい。なお、本講義はライブ方式を中心とする。				
到達目標	企業経営における管理会計の機能と役割、意思決定および業績評価における多様な管理会計手法と計算構造を理解し、ビジネス社会で管理会計の知識を活用できる基礎的能力を身につけることができる。				
評価の方法・基準	評価方法： 授業への貢献、演習課題、定期試験に基づき評価する。 評価基準： 授業への貢献 20％ 演習課題 40％、定期試験 40％ (S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満)				
参考文献等	テキスト： 浜田和樹『管理会計の基礎と応用』中央経済社、2011 年。 参考文献： 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子『管理会計・入門(第 4 版)』有斐閣、2017 年。 参考資料： 適宜、プリントを配布する。				
と実務経験の関連の概要					

授 業 計 画			
1	主題	管理会計の意義、体系、対象範囲	
	概要	企業経営において管理会計がどのような役割を担っているのかを解説する。財務会計と管理会計の対比から、管理会計の対象領域を学び、管理会計の体系について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
2	主題	利益管理のための原価情報	
	概要	標準原価による原価管理の構造と機能について解説する。標準原価を実際原価と比較し、原価の差異を計算することで、原価の概念を用いた計画と統制について学習する。利益管理のための原価計算がどのような情報を経営管理者に提供し、どのように活用するかについて学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
3	主題	短期利益計画と損益分岐点分析	
	概要	目標利益の達成を目的として実施される利益管理について解説する。利益管理の一連のプロセスについて概観し、利益目標の達成に向けて立案される計画および損益分岐点分析について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
4	主題	予算管理	
	概要	利益管理で設定した利益目標を達成する手段である予算管理について解説する。企業は、予算を用いて事業年度の活動を編成・統制しており、予算の基本機能および予算差異分析を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
5	主題	資金管理とキャッシュフロー管理	
	概要	ストックとフローの視点から短期および長期の資金管理、キャッシュフロー管理について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
6	主題	バランスト・スコアカードによる管理	
	概要	バランスト・スコアカードによる戦略的マネジメントシステムについて解説する。財務指標に加え、非財務指標による管理から企業の経営戦略について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
7	主題	財務情報分析	
	概要	企業の収益性や安全性を評価するための各種経営指標について解説する。実在する企業の財務諸表を用いて、経営分析の基礎を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
8	主題	業務的意思決定と差額原価収益分析	
	概要	業務的意思決定の特徴について解説し、個別業務計画について学習する。意思決定に関連する原価や収益を考慮し、自製か購入かの決定問題、プロダクトミックスの決定問題などの具体的な問題を検討する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
9	主題	戦略的意思決定	
	概要	戦略的意思決定の特徴について解説し、個別構造計画について学習する。設備投資の決定に役立つ分析法から設備投資決定問題を検討する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。

10	主題	標準原価による管理	
	概要	伝統的に管理会計が標準原価管理の主要な計算システムであることを解説し、原価標準を用いた原価管理について学習する。標準原価の計算に加え、標準原価差異分析により、コストコントロールについて学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
11	主題	原価企画と原価改善	
	概要	原価企画の基本的特徴およびプロセスを解説する。製品の生産段階での原価管理である原価改善について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
12	主題	活動基準原価計算、活動基準管理、活動基準予算	
	概要	伝統的な原価計算方法の問題点を確認し、活動基準原価計算の進展を解説する。活動基準原価計算を検討し、活動基準管理、活動基準予算について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
13	主題	管理会計事例研究(1)	
	概要	管理会計の技法を用いた事例研究	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
14	主題	管理会計事例研究(2)	
	概要	管理会計の技法を用いた事例研究	
		時間	学修内容
	事前学習	2	主題に関する疑問点を整理しておくこと。
	事後学習	2	授業時の配布プリントを熟読すること。
15	主題	まとめと定期試験	
	概要	講義内容についての定期試験を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	指定テキストをもとに本講義の内容を整理しておくこと。
	事後学習	2	本講義から得た知見を整理していくこと

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	ファイナンス戦略研究	担 当 者	富田 洋介
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講 義 の 目 的 ・ 内 容	本講義では企業における資金調達や付随する投資戦略について研究する。特にコーポレート・ファイナンス、つまり、企業側と、インベストメントファイナンスの側面、つまり、投資家の側面の両面から議論を重ねていく。本講義では企業にとって機動的な財務戦略とは何か。もしくは投資家が考えるべき投資戦略はどのようなものか。という内容について検討される。 本年度の本講義はオンライン(ライブ)にて行われる。 講義の進め方としてはテキストの輪読形式にて行う。したがって、事前の予習は不可欠となる。				
到 達 目 標	①企業の資金調達、投資理論などは学生さん自身で適切な説明ができるようになること。 ②専門的な視点から金融経済ニュースを読み解き、アカデミックな切り口から自分なりの意見を持つこと。 ③企業財務にかかわる簡単な数理計算ができるようになること。				
評 価 の 方 法 ・ 基 準	(1)評価の方法 レポートによる中間評価(50%)と期末試験またはレポート(50%)を合わせて総合評価する。 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 (2)評価の基準 総合評価は 100 点満点の素点で表し、以下の基準で成績とする。 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参 考 文 献 ・ テ キ ス ト	田中 慎一, 保田 隆明、『コーポレートファイナンス 戦略と実践』ダイヤモンド社、2019 年				
と実 務 経 験 の 関 連 概 要	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

授 業 計 画			
1	主題	イントロダクションとファイナンスの概略について	
	概要	講義の進め方とテキストのストーリーを概観する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	主題	リスクとリターン	
	概要	リスクとリターンの概念を適切に理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	主題	ハードルレートとは	
	概要	投資家が求める収益率について解説される	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	主題	投資収益の測定方法	
	概要	投資収益を測定するいくつかの方法を紹介する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	主題	資本構成	
	概要	資本コストについて議論する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	主題	資本構成の応用	
	概要	資本コストに関する理論的なモデルを解説する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	主題	資本構成の変化と枠組み	
	概要	資本構成の変化について議論する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	主題	配当政策について	
	概要	配当の効果について議論する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

9	主題	配当政策の分析	
	概要	配当の変化が企業価値にどのような影響を与えるのかについて議論される。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	主題	企業価値について	
	概要	企業価値の算定方法について触れる	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	主題	デリバティブについて	
	概要	先物・オプションなどの簡単なデリバティブについて学ぶ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	主題	統計処理の基礎	
	概要	ファイナンスに必ず必要な統計処理の基礎を学ぶ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	主題	資金調達市場の国際比較	
	概要	資金調達市場は国によって異なっているのかどうかを概観する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	主題	最近のトピック I	
	概要	最近の論文について議論する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	主題	まとめと総復習	
	概要	これまでの重要点を総復習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	リスクマネジメント	担 当 者	畔上 秀人
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	個人の生活や企業活動においては様々な事故が考えられるが、それが発生する可能性も様々である。事故に対する備えを全くしないことは危険である反面、過剰に意識すれば行動は著しく制限される。人類は事故の発生する可能性をリスクと捉え、過剰にも過小にもならないように、工夫を凝らして対策を講じてきた。本講義では原始的なリスクに対する工夫を紹介することから始め、近代的な保険によるリスクマネジメントの手法を中心に、リターンも考慮した投機的リスクの概念も含めて学んでゆく。 本講義は、オンディマンド形式である。				
到達目標	個人や企業が事故に遭遇する可能性をリスクと捉え、その事故に備えるための有力な手段である保険を中心に、リスクを管理する方法、すなわちリスクマネジメントの知識を身につけることが目標である。				
評価の方法・基準	評価の方法 原則として毎回の授業で課す課題の成績(全体の 56%)及び最終レポート課題の成績(全体の 44%)を合わせて総合評価する。 評価の基準 総合評価は 100 点満点の素点で表し、以下の基準で成績とする。 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献等	参考文献 ・リスクと保険について [1]家森信義編著『はじめて学ぶ保険のしくみ』第 3 版(中央経済社、2020 年) ・リスクマネジメントの事例について [2]上田和勇『事例で学ぶリスクマネジメント入門ー復元力を生むリスクマネジメント思考ー』第 2 版(同文館、2014 年) ・ファイナンスにおけるリスクについて [3]諏澤吉彦『リスクファイナンス入門』(中央経済社、2018 年)				
と実務経験の関連概要					

授 業 計 画			
1	主題	リスクのとらえ方、定義	
	概要	リスクにはいくつかの種類があり、またリスク管理手法もいくつかに分類できることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	リスクという言葉に対して自分が持っているイメージを再考してみる。
	事後学習	2	授業によって新たに気づいたリスクの具体例を探す。
2	主題	原始的なリスクマネジメント手法	
	概要	人間がリスクを回避する行動をとるのは自然なことであり、それにはどのようなものがあるのかを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	自分が直面するリスクを考え、それに対してどのような行動を取っているか、考えてみる。
	事後学習	2	自分が気づいていなかったリスクマネジメントの手法にどのようなものがあるのかを考える。
3	主題	確率の考え方	
	概要	数学における確率の概念を学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	高等学校までに学んだ確率の概念を復習する。
	事後学習	2	練習問題や課題に取り組む。
4	主題	個人にとってのリスクと生命保険	
	概要	個人は、死亡と生存というリスクに直面し、それに対しては生命保険という手段で備えられることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	生命保険とはどのようなものかを、調べておく。
	事後学習	2	実際の生命保険会社の HP を参照して、保険商品の特徴を調べてみる。
5	主題	個人にとってのリスクと損害保険	
	概要	火災や自動車事故は、個人が直面する代表的なリスクである。これらと損害保険のかかわりを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	損害保険とはどのようなものなのかを、調べておく。
	事後学習	2	実際の損害保険会社の HP を参照して、保険商品の特徴を調べてみる。
6	主題	多くの人々に共通のリスク:国のリスクマネジメント	
	概要	年齢や職業、地域などによらず、人々に共通するリスクが存在することを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	人々に共通するリスクとしてどのようなものがあるか、考えてみる。
	事後学習	2	授業で紹介した人々に共通するリスクに、個人としてどのような対処方法があるのか、それまでの授業内容も参考に考えてみる。
7	主題	社会保険による社会保障	
	概要	第 6 回で学んだ、多くの人々に共通するリスクには、国が運営する社会保障制度で対応する方法があることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	社会保障制度にはどのようなものがあるか、調べておく。
	事後学習	2	既に自分自身がかかわっている社会保障制度の内容を調べる。
8	主題	セーフティネットとは	
	概要	リスクへの対応は、基本的には自己責任であるが、生存が危ぶまれる状況に対しては救済措置を設けることが社会的合意となっている。ここでは、それについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	病気や怪我などを理由として、所得が得られない状況になった場合に対して、どのようなセーフティネットがあるのかを調べてみる。
	事後学習	2	より具体的なセーフティネットの仕組みについて、調べる。
9	主題	企業にとっての伝統的なリスク	
	概要	企業活動が個人の生活と異なる点は、財やサービスを大規模に生産し、流通なども担っているところである。こうした活動には自然災害などから被害を受ける可能性があることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	自分が起業し、企業活動をマネジメントする状況を想像し、どのようなリスクがあるかを考えてみる。
	事後学習	2	企業にとっての伝統的なリスクに備える方法を復習する。

10	主題	企業にとっての新しいリスク	
	概要	製造物責任の概念など、企業にとっての新しいリスクについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	企業にとっての新しいリスクにはどのようなものがあるか、考えてみる。
	事後学習	2	企業にとっての新しいリスクに備える方法を復習する。
11	主題	保険会社にとってのリスク	
	概要	保険会社とは、個人や事業会社のリスクを回避するサービスを担っている。しかし、その保険会社自体も、リスクに直面していることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	再保険について調べてみる。
	事後学習	2	授業内容に基づいて、再保険会社としてどのようなものが実際にあるのかを、調べてみる。
12	主題	投機的リスクとは	
	概要	自然災害等、リスクのイメージに比較的合うものと異なり、経済的な要因で損失が発生するというようなリスクについて学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	投機的リスクという言葉について、自分自身で調べてみる。
	事後学習	2	練習問題や課題に取り組む。
13	主題	投機的リスクに対する3つの態度	
	概要	投機的リスクへの対応には、様々な方法があることを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	危険回避的な態度とはどのような意味なのかを予習する。
	事後学習	2	投機的リスクに対する態度を数学的に定義する意味を、練習問題等を通じて再考してみる。
14	主題	リスク選好と行動ファイナンス	
	概要	ダチョウは肉食動物に狙われると砂に顔を入れ、危険を見ないことで安心しようとするなどと言われる。非合理的な行動は人間にも見られ、ここでは簡単な例でそれを学ぶ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	バイアスという言葉調べてみる。
	事後学習	2	人間の心理とバイアスの関係について復習する。
15	主題	振り返りとレポート課題	
	概要	レポート課題に取り組む中で、動画教材を再度視聴する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	把握できていない、もしくは理解しづらかった項目をリストアップする。
	事後学習	2	一旦作成したレポート課題を見直すことにより、理解度を自己評価する。

区分	大学院 現代経営研究科 基幹研究科目	科目名	相続・事業継承設計	担当者	富田 洋介
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	相続・事業承継設計では相続のプロセスと事業承継に関するプロセスが求められる。学生諸兄の年齢から鑑みれば、相続・事業承継設計は縁遠い話かと思われがちであるが、人間が生き物である限り必ず必要となる知識である。税金の知識と法律の知識についての習得が主な内容になる。本講義で相続・事業承継設計に関わる基礎知識を習得し将来の人生設計に役立ててもらいたい。				
到達目標	1) 相続・事業承継に関する基礎的な用語・知識を身につける 2) 中小企業などでは、相続・事業承継の問題は重要である。 したがって、事業評価に必要な知識を身につける。 3)リタイアメントプランニングに対してアドバイスできるようになる。				
評価の方法・基準	評価方法 講義への積極性 50% (課題および平常点) + 期末レポート 50% 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 評価基準 下記の基準により評価する 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献等	『CFP®資格標準テキスト』日本 FP 協会 (毎年更新されるテキストであるので最新版を入手すること)				
と実務経験の関連の概要	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務 (投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

授 業 計 画			
1	主題	講義の進め方と学習の方法と相続税法の意義について	
	概要	本講義を受講するにあたって必要な予習復習および自己学習の方法について説明する。 また、相続税法の意義について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	主題	相続の基礎	
	概要	相続のプロセスや相続人、相続財産などについて学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	主題	遺言について	
	概要	遺言の効用とその生かし方を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	主題	相続税の仕組み	
	概要	相続税に関する課税価格や申告・納付について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	主題	贈与税の仕組み	
	概要	贈与税の計算方法などを学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	主題	相続・贈与財産の評価について	
	概要	相続・贈与時に必要となる、土地・有価証券などの評価方法について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	主題	贈与を利用した相続設計について	
	概要	相続設計として贈与の仕組みを活用する方法を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	主題	評価引き下げの活用法について	
	概要	主に不動産の例を用いた活用方法を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

9	主題	事業承継の考え方について	
	概要	事業承継のプロセスについて考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	主題	事業承継の際の自社株式の評価について	
	概要	事業承継としての自社株設計を考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	主題	株式公開・事業売却	
	概要	自社の株式を公開するパターンと事業を売却するパターンの両面から考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	主題	法人の決算書の見方と分析(財務指標)	
	概要	企業の財務諸表から詳細な評価を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	主題	モデル研究①(相続・贈与)	
	概要	ファイナンシャル・プランナー試験における実技試験などを例に、これまで学んだ知識を活用する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	主題	モデル研究②(事業承継)	
	概要	ファイナンシャル・プランナー試験における実技試験などを例に、これまで学んだ知識を活用する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	主題	相続・贈与に関する総括	
	概要	相続・贈与における重要事項の総復習を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	タックスプランニング	担 当 者	富田 洋介
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の 目的・ 内容	講義の目的:タックスプランニングでは年金、金融資産運用、生命保険、不動産、贈与・相続など幅広い知識が必要となる。タックスプランニングはただ単に節税の知識と思われがちであるがキャリアアップを目指す実務家や就職活動をひかえた学生、家計の見直しのためには必要な知識となる。したがって、本講義でタックスプランニングに関わる基礎知識を習得し将来の人生設計に役立ててもらいたい。 内容:所得税を中心に学習することになるが、もちろん法人税や地方税についても学習する。 特に所得税についてはきちんと整理することで記憶の定着がよくなる。 したがって、講義後に自分自身で一度整理してみることをお勧めする。				
到 達 目 標	1)タックスプランニングに関する基礎的な用語・知識を身に着ける。 2)所得税に関する確定申告の制度、損益通算や各種控除の仕組みを理解する。 3)法人税の仕組みや企業財務に関する基礎知識を理解する。 タックスプランニングを学習することで、より一層実践的な知識が身につくことを期待している。				
評 価 の 方 法・ 基 準	評価方法 講義への積極性(平常点および課題) 50%＋期末レポート 50% 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 評価基準 下記の基準によって評価する。 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参 考 文 献等	『CFP®資格標準テキスト』日本 FP 協会(毎年更新されるテキストであるので最新版を入手すること)				
と実務 経験の 関連の 概要要	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

授 業 計 画			
1	主題	講義の進め方と学習の方法および税の役割	
	概要	本講義を受講するにあたって必要な予習復習および自己学習の方法について説明する。 また、税の意義について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
2	主題	税制の概要	
	概要	税金の体系や種類、税の徴収に関する基礎知識を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
3	主題	所得税について(所得税の種類について)	
	概要	所得税の内訳についてその種類を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
4	主題	所得税について(利子所得・配当所得・事業所得)	
	概要	利子所得、配当所得、事業所得の詳細について取り扱う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
5	主題	所得税について(給与所得・一時所得)	
	概要	給与所得、一時所得の詳細について取り扱う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
6	主題	所得税について(不動産所得・譲渡所得)	
	概要	不動産所得、譲渡所得の詳細について取り扱う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
7	主題	所得税について(退職所得・山林所得・雑所得)	
	概要	退職所得、山林所得、雑所得の詳細について取り扱う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。
8	主題	損益通算と繰越控除について	
	概要	損益通算の仕組みと繰越控除について詳細に学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したう えで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、 テキストの復習は重要である。

9	主題	確定申告と所得控除について	
	概要	確定申告書類の書き方や納付について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	主題	個人住民税および法人税について	
	概要	住民税の仕組みと法人税の仕組み、そしてその概念について取り扱う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	主題	法人の決算書の見方と分析(株価指標)	
	概要	株価を基準に計算を行う指標について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	主題	法人の決算書の見方と分析(財務指標)	
	概要	企業の財務諸表から詳細な評価を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	主題	消費税について	
	概要	消費税の仕組みと財政学的な視点から消費税を概観する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	主題	タックスプランニングとライフプランについて	
	概要	タックスプランニングをライフステージおよびイベントに適応させるために必要な概念を概観する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	主題	タックスプランニングに関する総括	
	概要	タックスプランニングにおける重要事項の総復習を行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区 分	大学院 現代経営研 究科 基幹研究科目	科 目 名	特別講義Ⅰ	担 当 者	清水 由美
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			必修(留学生のみ)		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			1 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講 義 の 目 的 ・ 内 容	【目的】 アカデミックな場面での口頭発表のしかたと、発表用の視覚資料に使う日本語表現を学ぶ。				
	【内容＝授業の流れ】 ①各回のテーマに従って、短い発表のためのスライドを作成し、口頭発表のためのノート(＝発表原稿)を書く。 ②講師からのフィードバックを参考に、スライドとノートを修正・完成し、口頭発表の練習をする。 ③クラスで発表をし／クラスメートの発表を視聴し、質疑応答を行う。 【授業の実施形態】 すべてオンラインで行う。スライドとノートの準備(上記①と②)はオンデマンド、発表(③)はライブで行う。				
到 達 目 標	①書きことばと話しことばの違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。 ②聞き手の興味を引きつけ、伝えたい内容をわかりやすく効果的に伝えるための話し方を身につける。 ③見やすくわかりやすい視覚資料(おもにスライド)を作成するための日本語表現を身につける。 ④自分の研究テーマや関心のある問題について、視覚資料を用いて口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。 ⑤ほかの受講生の発表を聞き、質問や意見交換ができるようになる。 ⑥自分の書いた文章や自分の口頭発表の形式・内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。				
評 価 の 方 法 ・ 基 準	1)評価方法 各回の練習課題(スライドと発表ノート)30%、各回の口頭発表 20%、授業への参加貢献(クラスメートの発表に対するコメントなど)10%、最終発表 40% (2)評価基準 【S:90～100 A: 80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参 考 文 献 等	・必要に応じて、説明の動画や参考資料を配信する。 ・テキスト:『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク ※このテキストは秋学期「特別講義Ⅱ」で本格的に使用するものだが、「特別講義Ⅰ」の口頭発表に際しても参照するので、春学期のうちに購入しておくこと。秋学期「特別講義Ⅱ」を受講しない学生は、購入しなくてもよい。				
と実 務 経 験 の 関 連 概 要					

授 業 計 画			
1	主題	オリエンテーション、口頭発表に関する理解の共有 ※【ライブ】	
	概要	シラバス確認 自己紹介(2種類の自己紹介) 口頭発表の経験と日本語力確認のためのアンケート メモと発表原稿の違いを確認する 最終発表のテーマを考える	
		時間	学修内容
	事前学習	0.5	シラバスを読み、自己紹介で話すことを考えておく Microsoft Teams への登録
	事後学習	1.5	・2種類の自己紹介(メモと発表ノート)作成 ・最終発表のテーマを考える
2	主題	・見やすいスライドを作る ・メモ／スライドを見ながら話す	
	概要	・メモの作り方(＝箇条書きのしかた) ・メモを見ながら話す練習	
		時間	学修内容
	事前学習	0.5	講師からのフィードバックを参考に、自己紹介のスライドを作成する
	事後学習	1	発表の練習
3	主題	理想の自己紹介！ ※【ライブ】	
	概要	クラスでスライドを使って自己紹介をし、質疑応答をする	
		時間	学修内容
	事前学習	1	講師からのフィードバックを参考に、スライドを完成し、発表の練習をする。
	事後学習	0.5	クラスメートによる自己紹介にコメントをする
4	主題	写真や図の説明	
	概要	写真などの画像を見せて、聞き手の興味を引きつつ、わかりやすく解説する	
		時間	学修内容
	事前学習	1	「何これ？」という画像を1枚選び、解説のためのスライドと発表ノートを作成する
	事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを修正・完成する
5	主題	発表会「何これ？」 ※【ライブ】	
	概要	クラスで発表し／発表を視聴し、質疑応答をする	
		時間	学修内容
	事前学習	1	発表の練習
	事後学習	0.5	クラスメートの発表についてコメントをする
6	主題	対比を明確にする	
	概要	「コロナ禍で得たもの、失ったもの」について、スライドと発表ノートを作成する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テーマについて、箇条書きで見やすいスライドを作成し、ノートを準備する
	事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを修正・完成する
7	主題	発表会「コロナ禍で得たもの、失ったもの」 ※【ライブ】	
	概要	クラスで発表し／発表を視聴し、質疑応答をする	
		時間	学修内容
	事前学習	1	発表の練習
	事後学習	0.5	クラスメートの発表についてコメントをする
8	主題	事実・伝聞(引用)・自分の意見をきちんと分ける	
	概要	「今気になっているニュース」を1つとりあげ、概要をわかりやすくまとめて紹介する	
		時間	学修内容
	事前学習	1	「今気になっているニュース」を1つ選び、紹介のためのスライドとノートを作成する
	事後学習	1	講師の意見を参考に、スライドとノートを修正・完成する
9	主題	発表会「今気になっているニュース」 ※ライブ	
	概要	クラスで発表し／発表を視聴し、質疑応答をする	
		時間	学修内容
	事前学習	1	発表の練習
	事後学習	0.5	クラスメートの発表についてコメントをする

10	主題	数字の意味を伝える	
	概要	気になるデータ(グラフや表)を1つ選び、「数字の意味」をわかりやすく紹介する ※教科書代6～8課を参考にすること	
		時間	学修内容
	事前学習	2	気になるデータを含むグラフあるいは表を1つ選び、出典を示したうえで、その内容をわかりやすく紹介するためのスライドと発表ノートを作成する。
	事後学習	1	スライド・ノートの修正
11	主題	発表会「気になるデータ」 ※ライブ	
	概要	クラスで発表し／発表を視聴し、質疑応答をする	
		時間	学修内容
	事前学習	1	発表の練習
	事後学習	0.5	クラスメートの発表についてコメントをする
12	主題	「日本の〇〇についての違和感」①	
	概要	テーマを決め、アウトラインを作成する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	テーマを決め、アウトラインを作成する
	事後学習	1	講師の意見を参考に、アウトラインを修正する
13	主題	「日本の〇〇についての違和感」②	
	概要	アウトラインに沿ってスライドを作成し、発表ノートを作成する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	スライドと発表ノートの作成
	事後学習	2	スライドと発表ノートの修正
14	主題	日本の〇〇についての違和感」③ ※必要に応じてライブ(個別対応)	
	概要	スライドとノートを修正し、話す練習をする	
		時間	学修内容
	事前学習	0.5	発表の練習と、質問の準備
	事後学習	1	スライドの完成と発表の練習
15	主題	「日本の〇〇についての違和感」発表会 ※ライブ	
	概要	・クラスで発表し／発表を視聴し、質疑応答をする ・授業評価	
		時間	学修内容
	事前学習	1	発表の練習
	事後学習	0.5	授業評価

区分	大学院 現代経営研究科 基幹研究科目	科目名	特別講義 II	担当者	清水 由美
	開 講 期 間	秋学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	必修(留学生のみ)			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	1 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
講義の目的・内容	【目的】 ①レポート作成に必要な日本語の語彙・表現形式、およびレポートの構成について学ぶ。 ②実際に関心のあるテーマを1つ選んで必要な情報・資料を集め、学期末に最終レポートを仕上げて提出する。 【内容】 ①一般的なレポートの構成に沿って、段階的に必要な知識を学び、練習をする。 ※事前にテキストの内容をしっかりと予習する。⇒疑問があれば授業で質問する。⇒予習内容の確認のためのクイズを受ける。⇒短い課題文を書いて提出する。 ②必要に応じて、最終レポート執筆のための相談や意見交換の場を設ける。 【授業形態】 すべてオンライン授業で、基本的にはオンデマンドで行うが、初回と 14 回目(必要なら 15 回目も)の2～3回は、ライブで行う。				
到達目標	①レポート作成に必要な日本語の語彙・表現形式、およびレポートの構成についての知識を身につける。 ②関心のあるテーマについて、A4 版 3 ページ程度(資料は別)の、説得力のあるレポートを仕上げる。 ③自分やほかの受講生が書いたものについて、意見交換ができるようになる。 ④教師による修正案を見て、自分の日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。				
評価の方法・基準	(1)評価方法 予習確認クイズ:20%、各回の課題文:40%、最終レポート:40% (2)評価基準 【S:90～100 A: 80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献・テキスト等	『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク ※春学期の「特別講義 I」で指定したテキストと同じもの				
と実務経験の関連の概要					

授 業 計 画			
1	主題	オリエンテーション、レポート作成に関する理解の共有	
	概要	・授業の概要説明 ・自己紹介 ・書いてみたいテーマについて話し合い ※ライブ	
		時間	学修内容
	事前学習	0.5	最終レポートのテーマとして、関心のあることをクラスで話せるようにしておく
	事後学習	1	自己紹介文(2040年の雑誌のインタビュー記事における自身のプロフィールとして)
2	主題	話し言葉と書き言葉の違いを意識し、レポートの構成を知る	
	概要	・テキスト1、2課「作文の基本」 ・アウトライン、情報・資料の集め方	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・予習確認クイズでミスがあれば、テキストで再確認しておく ・最終レポートのアウトラインを作成する
3	主題	引用のマナー、アウトラインの検討	
	概要	・テキスト11課「引用」 ・アウトラインの検討	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1.5	・引用および参考文献リストを含む課題文の執筆 ・前回提出したアウトラインへのフィードバックを読み、必要な修正をする
4	主題	レポート序論 #1	
	概要	・テキスト3課「課題の提示」 ・前回課題(文献リストと引用)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・研究課題の提示文を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
5	主題	レポート序論 #2	
	概要	・テキスト4課「目的の提示」 ・前回課題(「課題の提示」文)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・研究目的の提示文を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
6	主題	レポート本論 #1	
	概要	・テキスト5課「定義と分類」 ・前回課題(「目的の提示」文)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・定義と分類を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
7	主題	レポート本論 #2	
	概要	・テキスト6課「図表の提示」 ・前回課題(「定義と分類」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・図表の提示文を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
8	主題	レポート本論 #3	
	概要	・テキスト7課「変化の形容」 ・前回課題(「図表の提示」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・変化の形容を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする

9	主題	レポート本論 #4	
	概要	・テキスト 8 課「対比と比較」 ・「変化の形容」の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・対比と比較を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
10	主題	レポート本論 #5	
	概要	・テキスト 9 課「原因の考察」 ・前回課題(「対比と比較」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・原因の考察を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
11	主題	レポート本論 #6	
	概要	・テキスト 10 課「列挙」 ・前回課題(「原因の考察」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・列挙を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
12	主題	レポート本論 #7	
	概要	・テキスト 12 課「同意と反論」 ・前回課題(「列挙」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・同意あるいは反論を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
13	主題	レポート結論	
	概要	・テキスト 13 課「帰結」14 課「結論」 ・前回課題(「同意と反論」)の読み合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
	事後学習	1	・帰結あるいは結論を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
14	主題	最終レポートのテーマと構成を確定し、執筆にかかる	
	概要	レポート相談会(個別対応) 前回課題(「帰結／結論」)の読み合わせ ※ライブ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	最終レポートのテーマを決め、アウトラインを完成する
	事後学習	3	・最終レポートの執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする ・前回までのすべての課題について、疑問があれば質問する
15	主題	最終レポートを仕上げる	
	概要	レポートの仕上げと、学生による授業評価 ※必要に応じてライブで行う	
		時間	学修内容
	事前学習	1	最終レポートの仕上げ
	事後学習	3	・最終レポートの完成、提出 ・授業評価

区分	大学院 現代経営研究科 関連研究科目	科目名	ビジネス経済研究	担当者	田中 巖
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	本講義では、Managerial Economics (経営経済学)あるいは企業の経済学の観点から、基本的な経済学の理論と政策効果の分析方法を学習することを目的とし、自らの問題意識に基づいて研究していくことが出来るようになることを目指す。最適化問題、需要の理論、生産とコスト(費用)の理論、市場均衡、余剰分析について学び、様々な制約条件の下で最適な判断を行うための考え方を身につける。市場均衡の概念に慣れ、政策の影響について検討する方法を理解する。また、ケーススタディーを用いて経済学的意思決定手法が現実の世界でも応用されていることを知り、グローバルな時代のビジネスリーダーの意思決定に関して考察していく。 以下のテーマについて学習する。 (1)経営経済学の性格と範囲 (2)経済学における最適化問題 (3)需要の理論 (4)生産の理論 (5)コスト(費用)の理論 (6)市場均衡、市場構造と競争、余剰分析 (7)寡占産業と企業形態、多国籍企業				
到達目標	(1)経済学の基本概念、特に最適化問題について理解する。 (2)需要と供給の理論、市場均衡について理解する。 (3)余剰分析を応用し政策評価ができるようになる。 (4)完全競争市場と独占市場のモデルを習得し応用できるようになる。 (5)寡占産業(市場)の特徴と企業間競争について理解し応用できるようになる。 (6)多国籍企業について経済学的視点から理解する。				
評価の方法・基準	(1)評価方法 ウエイトは、授業参加(特にディスカッション)が 40%、期末レポートが 60%とする。 (2)評価基準 評価は、S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満 とする。				
参考文献等	テキストは指定しない。授業の中で、必要に応じて参考文献等を紹介・指定していく。 ただし、次の書籍は参考書として多用する。 福岡正夫、『ゼミナール経済学入門』第4版、日本経済新聞出版社、2008年。 また、ケーススタディーが豊富な以下の参考文献も教材として用いる。 使用するページ(英文)は、ケーススタディーを含め、コピーして配布する。 Salvatore, Dominic, Managerial Economics in a Global Economy. Oxford University Press, 2007.				
と実務経験の関連概要					

授 業 計 画			
1	主題	イントロダクション、Managerial Economics (経営経済学)とは、経済学と経営学の接点	
	概要	授業の進め方についての説明、意思決定と意思決定の5段階、企業の価値について	
		時間	学修内容
	事前学習	2	経済学について、どのような学問であったか振り返っておく
	事後学習	2	経済学と経営学の関連性について確認する
2	主題	経営経済学の範囲と性格	
	概要	企業(生産者)の理論、会計利潤と経済利潤、機会費用、グローバル化と経営経済学	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディーを予習
	事後学習	2	配布資料の復習と、それに関する追加文献を探し読んでみる
3	主題	経営経済学の範囲と性格(続き)、ケーススタディーの理解とディスカッション	
	概要	グローバルなリーダーの資質に関するケーススタディーを読み、ディスカッションを行う	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ケーススタディーの理解と考察、クエスチョンシートへの取り組み
	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
4	主題	経済学における最適化問題	
	概要	経済的な関係性とは、制約条件とは、経済学における最適化(最大化)問題について	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディーを予習
	事後学習	2	最適化問題とはどういうものか復習する
5	主題	需要の理論(1)	
	概要	需要の概念の復習、個々人の需要と市場における需要、限界効用と需要曲線、需要の価格弾力性と所得弾力性、需要の価格弾力性と経営における意思決定	
		時間	学修内容
	事前学習	2	需要に関して復習しておく
	事後学習	2	需要の価格弾力性について、計算方法も含めて復習しておく
6	主題	需要の理論(2)	
	概要	無差別曲線と予算制約線、効用最大化、需要曲線の導出、所得効果と代替効果	
		時間	学修内容
	事前学習	2	需要に関して復習しておく
	事後学習	2	最適化問題としての効用最大化について復習する
7	主題	需要の理論(3)、需要に影響するものとは、ケーススタディーの理解とディスカッション	
	概要	アメリカにおけるマクドナルドのハンバーガー需要の変遷に関するディスカッションと考察	
		時間	学修内容
	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
8	主題	生産の理論(1)	
	概要	生産関数とは、投入と限界生産性、最適な投入の組み合わせとは、等量曲線と等費用線、限界生産力逓減の法則、費用最小化	
		時間	学修内容
	事前学習	2	供給に関して復習しておく
	事後学習	2	等量曲線と等費用線について復習する
9	主題	生産の理論(2)	
	概要	自動車による移動時間コストとガソリン・コストに関するディスカッションと考察	
		時間	学修内容
	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習

10	主題	コスト(費用)の理論(1)	
	概要	固定費用と可変費用、短期・長期の費用関数、平均費用と限界費用、市場規模と企業数、規模の経済性と企業の大きさ(最小効率規模)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	費用に関して復習しておく
	事後学習	2	規模の経済性と企業の大きさ、企業数との関係について復習する
11	主題	コスト(費用)の理論(2)	
	概要	完全競争市場における利潤最大化、供給曲線の導出、完全競争市場の特徴	
		時間	学修内容
	事前学習	2	完全競争市場について復習しておく
	事後学習	2	最適化問題としての利潤最大化について復習する
12	主題	市場均衡とその特徴(1)	
	概要	需要曲線・供給曲線を用いた完全競争市場における均衡の図解、均衡点の特徴、不均衡な点の特徴、消費者余剰・生産者余剰と社会的余剰、様々な政策効果の影響分析	
		時間	学修内容
	事前学習	2	市場均衡の図解を復習しておく
	事後学習	2	余剰分析について復習する
13	主題	市場均衡とその特徴(2)	
	概要	市場構造と競争の程度、独占市場、寡占市場、独占的競争市場、独占市場における均衡の図解合わせ	
		時間	学修内容
	事前学習	2	市場構造の種類と特徴について復習しておく
	事後学習	2	余剰分析の視点から市場形態の特徴が説明できることを復習する
14	主題	市場均衡とその特徴(3)	
	概要	航空業界や家電業界などに関するケーススタディーを議論	
		時間	学修内容
	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
15	主題	寡占産業と企業間競争・企業形態、多国籍企業、期末レポート課題の配布と説明	
	概要	市場の集中度、寡占市場のモデル、寡占企業の効率性と利益率、グローバルな寡占企業、海外直接投資(FDI)と多国籍企業	
		時間	学修内容
	事前学習	2	企業の成長とは何かについて考えておく
	事後学習	2	期末レポート課題に取り組む

区分	大学院 現代経営研究科 関連研究科目	科目名	ビジネス法律研究	担当者	北島 純
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	本講義は、ビジネスを行う上で出会う「法律問題」について、主要な場面ごとに具体的なケースを取り上げて、「ビジネスと法律」についての理論的及び実務的な知見を深めることを目的とします。 ビジネスに関わる法律には、民法・会社法から独占禁止法・不正競争防止法まで、様々なものがあります。そうしたビジネス法の基本的な知識を修得しつつ、ビジネスを遂行する上で直面する法律問題を想定してケーススタディを行います。本講義は、オンライン・ライブ方式で実施します。				
到達目標	(1)ビジネスに関わる主な法律を知り、必要な場面で規制の趣旨を調べることができるようになる。 (2)ビジネスにおいて法律をどのように利用できるか、事例を挙げて説明できるようになる。 (3)法律問題の回避・解決方法を学び、法適用の具体例を説明できるようになる。				
評価の方法・基準	(1)評価方法 各自が担当する報告(30%)、質問・意見などの授業参加状況(30%)及び期末レポート(40%)により評価します。 (2)評価基準 評価基準【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献等	教科書は使用しません。毎回レジュメを配付し、必要に応じ参考文献を指示します。				
と実務経験の関連の概要	コンプライアンスの専門家として内外の企業の法務部門・コンプライアンス部門等に助言を提供してきた経験及びデンマーク王国大使館にて欧州企業による対日ビジネス進出支援等を行った経験に基づき、企業が直面する法律問題を手続面も含めて具体的に解説する。				

授 業 計 画			
1	主題	ビジネスと法	
	概要	企業にとっての法律問題と法的リスク	
		時間	学修内容
	事前学習	2	経営リスクとしての法律問題を考える。
	事後学習	2	経営リスクとしての法律問題の実例を一つ検討する。
2	主題	株式会社のしくみ	
	概要	株式会社の制度、株主と株式	
		時間	学修内容
	事前学習	2	日本の企業は、なぜ株式会社形態が多いのか、考えてくる。
	事後学習	2	自分が起業するとしたら、どのような制度設計にするかを考える。
3	主題	株式会社の経営と監督	
	概要	意思決定と執行、役員の権限と責任、コーポレートガバナンス	
		時間	学修内容
	事前学習	2	株式会社の行った違法行為の責任は誰が負うか、考えてくる。
	事後学習	2	株式会社の違法行為が問題となったケースを一つ検討する。
4	主題	株主と投資家に対する責任	
	概要	計算書類、情報開示、倒産	
		時間	学修内容
	事前学習	2	不正会計の事例について一つ調べてくる。
	事後学習	2	不正会計を防止するために何が必要化を考える。
5	主題	取引先に対する責任	
	概要	契約の不履行、損害賠償	
		時間	学修内容
	事前学習	2	取引先に対する契約不履行で何が問題となるかを考える。
	事後学習	2	取引先に対する契約不履行が問題になった事例を一つ調べる。
6	主題	消費者に対する責任	
	概要	消費者契約法と製造物責任法	
		時間	学修内容
	事前学習	2	消費者向け取引が事業者間取引とどう違うか、調べてくる
	事後学習	2	消費者問題のケースを一つ検討する。
7	主題	企業の社会的責任	
	概要	CSR、SDGs、ESG 投資	
		時間	学修内容
	事前学習	2	企業がCSR(社会的責任)を果たす上でなぜSDGsの視点が重要なのかを調べてくる。
	事後学習	2	企業によるSDGsへの取り組み事例を一つ検討する。
8	主題	知的財産権に関わる紛争	
	概要	特許法、著作権法、不正競争防止法	
		時間	学修内容
	事前学習	2	知的財産権が企業間紛争となった事例を調べてくる。
	事後学習	2	知的財産の窃取が問題となった事例を一つ検討する。
9	主題	市場における競争のルール	
	概要	独占禁止法と競争制限行為の禁止	
		時間	学修内容
	事前学習	2	入札談合はなぜ悪いことなのか、調べてくる。
	事後学習	2	独禁法違反が摘発された事例を一つ検討する。

10	主題	贈収賄の防止	
	概要	刑法の贈賄罪、不正競争防止法の外国公務員贈賄罪	
		時間	学修内容
	事前学習	2	贈賄がなぜ悪いことなのか、考える。
	事後学習	2	外国公務員への贈賄が摘発された事例を一つ検討する。
11	主題	情報セキュリティ	
	概要	個人情報保護法、公益通報者保護制度	
		時間	学修内容
	事前学習	2	個人情報が漏洩した事例において、何が問題となるか考えてくる。
	事後学習	2	個人情報が漏洩した事例を一つ検討する。
12	主題	労働者保護のための規制	
	概要	労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法	
		時間	学修内容
	事前学習	2	雇用契約は、どうして契約自由の原則の例外であるところが多いのか、考えてくる。
	事後学習	2	労働者の保護が問題となった事例を一つ検討する。
13	主題	労働市場における規制	
	概要	労働契約法、男女雇用機会均等法、労働者派遣法	
		時間	学修内容
	事前学習	2	採用と解雇に関する法律を一つ調べてくる。
	事後学習	2	労働者の採用又は解雇が問題となった事例を一つ検討する。
14	主題	法執行の手続	
	概要	民事訴訟、行政処分、刑事手続	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ビジネスにとって法執行が持つ意味を考える。
	事後学習	2	ビジネスに対する法執行の事例を一つ検討する。
15	主題	まとめ	
	概要	企業のステークホルダーごとに主な法律問題を挙げ、そのうちの一つについて、企業としての問題の解決方法と再発防止策を述べる。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	レポートの構想を練る。
	事後学習	2	レポートを作成する。

区分	大学院 現代経営研究科 関連研究科目	科目名	欧米ビジネス研究	担当者	セーラ バーチュリ
	開 講 期 間	春学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
講義の目的・内容	This course is LIVE (オンライン授業) The increasing globalization of the market place affects all who are involved with business or who must make business decisions. Even those who are not directly involved in international business are affected in their domestic operations by international events and by the business activities of foreign entities. Therefore, it is imperative to be knowledgeable about the international business systems in Europe and North America. This course will introduce the concepts of international business in relation to various companies based in Europe and North America. It is important to remember that Europe is composed of fifty plus countries and consequently the business culture, business ethics and general value of business, can vary considerably amongst them. In addition, with the current situation involving Brexit and the COVID crisis, business professionals cannot afford to ignore what is happening in Europe and the impact that has on the wider global economy. Through in-depth case study discussion, analysis, and problem solving tasks in class, we will explore the major features of these North American and European companies. This course will also include interactions with students overseas via online learning tools, such as Zoom. This course covers the following SDGs: SDG 1: 貧困をなくそう SDG 3: すべての人に健康と福祉を SDG 5: ジェンダー平等を実現しよう SDG 8: 働きがいも経済成長も SDG 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう SDG 10: 人や国の不平等をなくそう SDG 11: 住み続けられるまちづくりを SDG 12: つくる責任つかう責任 (Week 11 specifically focuses on the SDGs)				
到達目標	In this course you will understand the following aspects of global business development and strategy: Advertising strategies; Product differentiation; Strategic alliances; Innovation; UX Design and thinking; Cross-cultural business communication; Integrating web services; Understanding CSR; Globalization and business; Sustainability and ethics; Agility and flexibility in business; Alignment.				
評価の方法・基準	授業中の平常点(出席・プレゼン・発言・研究・参加態度等)により評価します。 受講者の人数・能力、授業の進捗状況により、小テストを実施し、平常点に加えることもあります。 Case Analysis 40%, Presentation 20%, In-class discussions 20%, Final Report 20% 詳細は、初回授業で説明します。 評価基準【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献・テキスト	Teacher prepared case studies, class TEAM for additional multimedia materials.				
授業の関連性	実務経験の概と				

授 業 計 画			
1	主題	Business in Europe and North America	
	概要	Breaking the Ice – Introduction to business in Europe and North America. Geography and basic sociocultural and economic considerations in the region. What is strategy? Does it differ between regions? What is the influence of politics on global business in these regions?	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read course syllabus and expectations
	事後学習	2	Read Unit 1
2	主題	1. FAANG (Facebook, Apple, Amazon, Netflix and Google) (USA)	
	概要	Technology: Identity, value, innovation, ABC-M Landscape. The dominance of North America in technology. Exploring the impact of COVID-19 on the on-demand economy.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 1
	事後学習	2	Task: Choose a company in the service industry and explore how it can adapt to the on-demand economy. OR Choose an on-demand business and how it adapted during the COVID-19 crisis. Prepare your findings to present to the class next week.
3	主題	2. Kraft Foods (USA/Europe)	
	概要	Food and Beverage: Differing operating models for North America and Europe	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 2
	事後学習	2	Explore Kraft in another European or North American country. How is the performance? Have they localized their products? What strategies have they used to enter the market? Prepare a short presentation and discussion questions about Kraft in these new markets.
4	主題	3. Booking.com (The Netherlands)	
	概要	Tourism and Hospitality: UX Design, design thinking, and the Netherlands as an innovation hub, innovations in the North American and European tourist industry as a result of COVID-19	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 3
	事後学習	2	Choose a service site similar to Booking.com and create a User Journey map and Empathy Map for the site. Prepare a short presentation of your findings. How could the company improve their site based on your findings?
5	主題	4. HSBC (UK)	
	概要	Banking: Communicating across cultures; global banking, local approaches. Islamic Finance in European and American contexts.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 4
	事後学習	2	Look at the connection between religion and business. Find another example of a company or industry that is tightly connected to religion. What are the advantages of this? What are the disadvantages of this? This is a big difference between Asia and the West. How are companies and their business models. Products and services affected by or influenced by religion?
6	主題	5. Nestle (Switzerland)	
	概要	Food and Beverage: CSR, creating shared value in the supply chain.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 5
	事後学習	2	Choose a company and research about how they engage in Shared Value Creation.

7	主題	6. Lululemon Athletica (Canada)	
	概要	Sports Retail: Integrating with Amazon Web Services.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 6
	事後学習	2	Can you predict a trend in the health/lifestyle/exercise sector? Who is your customer? Why do they need the product? What is your product? When and Where would you sell it? How would you promote? How could you use AWS? Create a simple presentation to share your ideas.
8	主題	7. L’Oreal (France)	
	概要	Cosmetics, hair and beauty: Global brand and local knowledge, adaptation and flexibility.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 7
	事後学習	2	Male cosmetics is the next big beauty trend. Find a North American/European beauty company that has a male-focused line of products. Explore their marketing strategies. How are they appealing to the male market? Write 1x A4 page about the company, their male products, and their strategy.
9	主題	8. Primark/Pennys (Ireland)	
	概要	Fast Fashion: Sustainability, Corporate Social Responsibility, and ethics post-Rana Plaza disaster.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 8
	事後学習	2	Choose a recent business scandal. Analyse it from an ethics perspective: Why do you think it happened? Laziness, Greed, Confusion, Power, Complacency How was each level affected? (individual/moral character/relationships/the company?) What would you suggest for the future?
10	主題	9. Cirque du Soleil (Canada)	
	概要	Blue Ocean Strategies: Creating uncontested market space, breaking the value/cost trade off. How Cirque has weathered the COVID crisis.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 9
	事後学習	2	Choose a company and explore it using the Blue Ocean Mindset. Write and explain an ERRC Grid for the Company Who are the Soon to Be, Refusing and Unexplored Customers?
11	主題	10. Walgreens and Boots Alliance (USA and UK)	
	概要	Retail Pharmaceuticals: Alignment of strategies, targets and policies with UN SDGs, plus how the retail pharmacies in North America and Europe supported COVID-19 vaccination delivery.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Read Unit 10
	事後学習	2	Find a company from Europe/North America and introduce their SDG activities. Share with the class what YOU do to help the SDGs
12	主題	Presentation Preparation	
	概要	Preparing your research presentation	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Review of readings and PowerPoints
	事後学習	2	Prepare for research presentations
13	主題	Presentation Session 1	
	概要	Student research presentations in English or Japanese on a research topic selected and negotiated with course leader.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Prepare for presentations
	事後学習	2	Peer-self evaluation and reflection

14	主題	Presentation Session 2	
	概要	Student research presentations in English or Japanese on a research topic selected and negotiated with course leader.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Prepare for presentations
	事後学習	2	Peer-self evaluation and reflection
15	主題	Evaluation and Feedback	
	概要	Presentation evaluation, self and peer-review, reflection.	
		時間	学修内容
	事前学習	2	Review whole course
	事後学習	2	Self-reflection Task

区分	大学院 現代経営研究科 関連研究科目	科目名	中国ビジネス研究	担当者	李 新建
	開 講 期 間	秋学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
講義の目的・内容	中国は 1970 年代末に従来の社会主義計画経済から改革開放路線に転換して以来、世界に類を見ないほどの高度経済成長を達成し、名目 GDP では 2010 年に日本を抜いて世界第 2 位の経済大国になり、購買力平価 GDP では 2014 年に米国を抜いて世界第 1 位に躍進した。近年中国経済は長期間にわたる高度成長を終えるようになったが、安定成長期に入り、経済大国から経済強国への構造転換に取り組んでいる。このような背景のもとに、中国ビジネスや中国企業の成長は世界から注目を浴びている。 1980 年代ごろ日本企業の研究に基づいて新しい企業経営のコンセプトや理論体系が生み出されたと同様、中国ビジネスや中国企業の研究によりいわゆる“C 理論”という新たな経営の理論体系の創出が期待されている。中国企業の実践 (Chinese firm's practice) に基づいて、変革(change)、補完性(complementary)、キャッチアップないし追い越し(catch-up and beyond)、協働(co-evolution)などをキーコンセプトとする経営理論体系のことである。 本講義は、受講生に中国の経済改革、中国ビジネスの特徴と動向、中国企業の成長と発展戦略、中国企業と日本企業との経営比較などに対する理解を深めてもらうことを目的とする。まず中国経済の改革開放の歴史・過程を把握し、その上で、ケース研究や文献検討により中国ビジネスの発展や中国企業の成長の秘訣を考察する予定である。1 回目の授業で、本講義の具体的な進行を説明するので、必ず出席してください。 本科目はライブ・オンライン授業を実施する予定である。				
到達目標	本科目の到達目標は以下の通りである。 (1) 中国経済の改革開放の歴史と現状を理解できるようになる。 (2) 中国ビジネスの特徴と動向を把握できるようになる。 (3) 中国企業の成長戦略に対する理解を深めることができるようになる。 (4) 中国企業と日本企業の経営比較に対する理解を深めることができるようになる。				
評価の方法・基準	発表、議論への参加度合い及び期末レポートに基づいて評価する。 配点は、レジュメによる発表・予習を 40%、授業への参加度合いを 30%、最終レポートを 30%とする。 評価は 60%以上を合格とし、「S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満」とする。				
テキスト・参考文献等	必要に応じてプリントを配布する。 参考文献: 佐々木信彰 (2018)『転換期中国の企業群像』晃洋書房。 高口康太 (2017)『現代中国経営者列伝』星海社。 永井竜之介 (2020)『リープ・マーケティング:中国ベンチャーに学ぶ新時代の「広め方」』イースト・プレス。 井上達彦・鄭雅方 (2021)『世界最速ビジネスモデル:中国スタートアップ図鑑』日経 BP 社。 岡野寿彦 (2020)『中国デジタル・イノベーション:ネット飽和時代の競争地図』日本経済新聞出版社。 野林健・長尾悟編著 (2011)『国際政治経済を学ぶ:多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房。 江若塵・王丹編著 (2017)『中国トップ 500 社ケース精選:中国大手企業の革新・転換の軌跡』シリーズ(中国語:“中国 500 强企业案例精选:寻求中国大企业创新转型发展的路径”)中国・经济管理出版社。				
実務経験の概と授業の関連性					

授 業 計 画			
1	主題	中国という国とは	
	概要	中国の政治体制と経済発展の概要	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前は中国ビジネスや関心する中国企業の経営動向を調べておく。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
2	主題	中国経済の改革開放: 中国学者の観点から	
	概要	1970 年代末から今日までの改革開放の軌跡	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
3	主題	中国経済の改革開放: 外国学者の観点から	
	概要	中国の国有企業改革	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
4	主題	ケース研究 (1)	
	概要	ハイアール(海爾)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
5	主題	ケース研究 (2)	
	概要	レノボ(聯想)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
6	主題	中国のデジタル・イノベーション	
	概要	中国のプラットフォーム・ビジネス	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
7	主題	ケース研究 (3)	
	概要	シャオミ(小米)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
8	主題	ケース研究 (4)	
	概要	テンセント(騰迅)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
9	主題	ケース研究 (5)	
	概要	ピンドウオドゥオ(拼多多)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

10	主題	ケース研究(6)	
	概要	アリババ(阿里巴巴)	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
11	主題	中国企業のマーケティング戦略(1)	
	概要	中国企業における「加減型マーケティング」の観点	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
12	主題	中国企業のマーケティング戦略(2)	
	概要	中国企業における「未来型共創マーケティング」の観点	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
13	主題	中国企業のマーケティング戦略(3)	
	概要	中国企業における「ブルーポンド戦略」の観点	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
14	主題	中国企業のマーケティング戦略(4)	
	概要	中国企業における「ブリッツスケール戦略」の観点	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノート を準備する。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
15	主題	総合発表と期末レポートの提出	
	概要	第1～14回の内容に基づいて、期末レポートをまとめ、総合発表の後に提出する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末レポートをまとめておく。
	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

区 分	大学院 現代経営研 究科 実践研究科目	科 目 名	ケーススタディ 1 (マーケティング)	担 当 者	隈本 純
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			2 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	将来マーケティングを目指す人材にとって、マーケティング戦略の本質を理解するために、その理論的背景を学ぶことは極めて重要である。それと同時に、現実のビジネスの世界において企業が具体的にどのような行動をとり市場に適応しようとしたのかを様々な視点から独創的に検証するスキルを身につけることも必要である。 本科目では市場環境分析やマーケティングミックスの各側面などのマーケティング戦略のキーポイントを深く理解するための具体的な企業・商品事例（ケース）を各回の授業に配置してある。受講生がそれらのケース分析課題を通じて当該企業活動を擬似体験し、グループ討議を通じて自らの戦略的判断の精緻化と現実妥当性の精度を向上させることを講義の目的とする。 なお、本科目はオンライン（ライブ形式）での開講となる。また、SDG s 目標の「つくる責任、つかう責任」と関連している。				
到達目標	1) ケースに書かれている企業活動に関する実態、課題・問題点を理解すること 2) 新たな情報を収集するなどして課題解決に向けた施策を多面的に考察し、提案として取りまとめるスキルを身につけること 3) 効果的なプレゼンテーションを設計し、周囲の批判的考察に対して建設的な反駁ができるようになること				
評価の方法・基準	各回のケース分析課題に関する準備・プレゼンテーション・討議参加度(40%)、課題成果の自己理解・論理一貫性・情報量(30%)、成果の独創性・説得性(30%)の 3 項目により、次の評価基準を用いて総合的に評価する。 S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献・テキスト	教科書;青木幸弘(2016)「ケースに学ぶマーケティング」有斐閣ブックス ISBN 978-4641184268 参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。				
実務経験の概と授業の関連性					

授 業 計 画			
1	主題	講義ガイダンスと導入授業	
	概要	授業の概要、進め方、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイダンスする。導入授業としてケーススタディの学び方について解説するとともに、教科書第1章の事例(CASIO G-Shock)について概説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ケーススタディの方法論について事前に調べておくこと。
	事後学習	2	事後はこの授業で学ぶ授業内容について調べる。次の授業課題に向けて準備をすること。
2	主題	競争戦略	
	概要	ライフネット生命のニッチャー戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
3	主題	セグメンテーションとターゲティング	
	概要	パナソニックの新たなセグメント創造戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
4	主題	ポジショニング	
	概要	スターバックスとドトールのポジショニング比較分析	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
5	主題	消費者行動	
	概要	はじめての結婚式列席用ドレス選び	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
6	主題	マーケティング・リサーチ	
	概要	Jリーグクラブのデータを使った分析とソリューションの提案	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
7	主題	新製品開発	
	概要	「お〜いお茶」の製品開発と競争	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
8	主題	価格戦略	
	概要	久原本家の価格戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。

9	主題	流通経路戦略	
	概要	ライオンの新たなチャネル構築戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
10	主題	コミュニケーション戦略	
	概要	アサヒビールの顧客コミュニケーション戦略	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
11	主題	新たなブランド構築	
	概要	Pasco「超熟」ブランドの製品ライフサイクルとブランド拡張	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
12	主題	サービスの本質	
	概要	加賀屋の「おもてなし」	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
13	主題	経験価値創造のマーケティング	
	概要	東京ディズニーリゾートにみる価値創造の施策	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
14	主題	関係性マーケティング	
	概要	ハーレーダビッドソンの仕掛けるリレーションシップとは	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
15	主題	インターネットマーケティング、総括	
	概要	東急ハンズのオムニチャネル戦略。講義全体のまとめ。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
	事後学習	2	受講後は教科書全体を復習し、講義ノートを読み返しながら、今学期の学習内容について復習し、理解を深めておくこと。

区 分	大学院 現代経営研 究科 実践研究科目	科 目 名	ケーススタディ 2 (ファイナンス)	担 当 者	畔上 秀人
開 講 期 間			春学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			2 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	本科目は実践研究科目であり、ファイナンス(金融)分野の発展的内容を学習するものである。ここでは、ファイナンスを利用する主体を企業、政府、個人(家計)に大別する。 一般に、中小企業と大企業ではファイナンスの手法が異なり、前者に比べて後者の方が選択肢が多い。具体的なファイナンスの手法を学び、各ケースでの特徴を示してゆく。 政府のファイナンスといえば、公債発行がすぐに想起される。しかし、これは主に財政学で論じられる内容なので、ここでは PFI のケースに注目する。 最後に、個人のファイナンスは身近なものであり、自身の現在、将来とも関連させて学習してもらいたい。例えば、貸与型の奨学金もパーソナルファイナンスの一つである。どのように返済していくかといったことも問題の一つである。 以上から、多様なファイナンスの手法を、事例をもとに理解することが、本講義の目的である。 ライブ形式のオンライン講義である。				
到達目標	・経済主体が、その置かれた状況の下で選択できるファイナンスの手法として、どのようなものがあるかを調べられるようになる。 ・資金調達から始まり、返済が必要な場合は返済まで、一連のファイナンスの流れを理解する。				
評価の方法・基準	(1) 評価方法 取得した知識をもとに、レポートを作成し、提出する。授業参加態度と授業への貢献 40%、課題レポート 60%との基準で評価する。 (2) 評価基準 【S:90～100 A: 80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】				
参考文献	テキストは指定しない。				
授業の関連性	実務経験の概と				

授 業 計 画			
1	主題	ファイナンスとは	
	概要	基礎研究科目、基幹研究科目の履修において、ある程度ファイナンス(金融)に関する知識を身につけているという前提で、ファイナンスの意味を再考する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	これまでに学んだファイナンスに関する知識を整理しておく。
	事後学習	2	経済主体ごとに異なるファイナンスが必要となる状況について、自分の認識になかったものを復習する。
2	主題	コーポレートファイナンス①	
	概要	コーポレートファイナンスとは、企業がその価値を最大化するように資金を調達し、企業活動を行うことである。ここでは、コーポレートファイナンスの概念と、銀行を中心とした間接金融に分類される機関からの融資について考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	大きな企業が金融機関から融資を受けるとき、実際にはどのような方法になるのかを調べておく。
	事後学習	2	大企業への銀行融資は、新聞に報道されることもあるので、それらを調べて学習内容を復習する。
3	主題	コーポレートファイナンス②	
	概要	社債の発行による資金の調達について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	金融機関から融資を受ける場合と、社債発行による資金調達では、どのような違いがあるのかを調べておく。
	事後学習	2	実際にどのような企業から社債が発行されているのかを調べてみる。
4	主題	コーポレートファイナンス③	
	概要	株式の発行による資金の調達について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	金融機関から融資を受ける場合と、株式の発行による資金調達では、どのような違いがあるのかを調べておく。
	事後学習	2	株式市場から資金調達できる企業は、具体的に何社あるのか、調べてみる。
5	主題	中小企業のファイナンス①	
	概要	中小企業が金融機関から融資を受ける状況を考察する。大企業と異なる点の一つは、信用金庫や信用組合といった、組合組織の金融機関から融資が受けられるということである。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	中小企業の定義と、実際の企業の実態について調べておく。
	事後学習	2	金融機関側の融資姿勢を、金融機関のホームページなどで読み取る。
6	主題	中小企業のファイナンス②	
	概要	中小企業向けには様々な融資制度がある。それらについて、実例で学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	中小企業向けの融資制度について、できるだけ調べておく。
	事後学習	2	金融機関融資と比べて、制度融資のメリットとデメリットを比較してみる。
7	主題	個人事業のファイナンス①	
	概要	通常、個人事業であっても、金融機関から融資は受けられる。ここでは伝統的な資金調達方法を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	金融機関が個人事業に融資する場合、法人との違いはどこにあるのかを考えてみる。
	事後学習	2	金融機関のホームページ等で、個人事業への融資条件を調べてみる。
8	主題	個人事業のファイナンス②	
	概要	クラウドファンディングなど、新しいファイナンス手法を学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	クラウドファンディングの仕組みを調べておく。
	事後学習	2	クラウドファンディング事例を、講義で扱ったもの以外にも調べてみる。

9	主題	パーソナルファイナンス①	
	概要	個人が資金を必要とする場面を考え、その方法を考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	個人が住宅を保有する場合や、高額な教育費を支払う場合、どのような資金調達方法があるのか、調べてみる。
	事後学習	2	実際の金融機関には、どのような個人向け融資のサービスがあるのか、調べてみる。
10	主題	パーソナルファイナンス②	
	概要	個人のライフプランを考え、その中で資金計画を立てる方法について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	個人のライフイベントとして、どのようなものがあるかを調べておく。
	事後学習	2	個人のキャッシュフロー表を、自分自身について作成してみる。
11	主題	政府のファイナンス①	
	概要	政府の資金調達方法を考察し、PFI という手法について解説する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	政府の財政について調べておく。
	事後学習	2	国債の種類を調べてみる。
12	主題	政府のファイナンス②	
	概要	いくつかの PFI 事例を取り上げ、考察する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	前に紹介した PFI 事例について、自分自身でも調べておく。
	事後学習	2	講義で取り上げていない PFI 事例も数多く存在するので、興味のあるものを調べてみる。
13	主題	ファイナンス事例研究①	
	概要	これまでの講義の中で紹介したファイナンスの種類について、履修者が興味を持ったものについて、事例を調べて発表する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	企業、個人、政府のファイナンスの中で、興味を持ったものについて、事例を調べて発表の準備をする。
	事後学習	2	他の履修者の発表を聴いて、学んだことをまとめる。
14	主題	ファイナンス事例研究②	
	概要	これまでの講義の中で紹介したファイナンスの種類について、履修者が興味を持ったものについて、事例を調べて発表する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	企業、個人、政府のファイナンスの中で、興味を持ったものについて、事例を調べて発表の準備をする。
	事後学習	2	他の履修者の発表を聴いて、学んだことをまとめる。
15	主題	全体を通したファイナンスに関する議論	
	概要	学習を通じて、ファイナンスの現状についてわかったこと、そして今後のファイナンス手法の発展について議論する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	全体の学習を復習しておく。
	事後学習	2	一つの事例を選び、レポートを作成する。

区 分	大学院 現代経営研 究科 実践研究科目	科 目 名	ケーススタディ 3 (ヒューマン・リソース)	担 当 者	横山 和子
開 講 期 間			秋学期		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			2 年		
単 位 数			2 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講義の目的・内容	1. 目的: グローバル化の深化、ICTなど急激な技術進歩や価値観の多様化など、大きく変化する時代を生き抜くには、次代を見通す力と、自らの考え、主張を培い、相手の主張を受け止めつつ、自らの主張を的確に発信、新たな創造につなげる力が必須となる。本講義では、これらの力の基礎となるロジカルシンキングとビジネスコミュニケーション能力の向上を目的に、特にビジネスや経営の現場で求められるより実践的なスキルの理解と習得、実践力をケース学習を通じ図る。 2. 内容 ビジネス環境の理解: 経済・政治・社会の変化とその背景についての考察 討議を通じて、現実世界の理解ならびにFACT FINDINGの大切さ、複眼思考の大切さを学ぶ。 3. 進め方:より実践的に、討議中心。講義内容は適宜、変更することもある。 講義においては、理論倒れとならないように、原理・原則を踏まえつつ実践例の研究を通じて、より実際の、応用力につながる方向を目指す。 (1)各講義の冒頭 20分は、経済・ビジネス・社会潮流に関するカレントなトピックスをケースとして取り上げ、問題提起と意見交換、解説を行う。 (2)後半は、企業の現実に根差した具体的な事例を取り上げ、学生が研究発表を行う。発表後、クラス内で討議を行う。討議結果を踏まえ、原理・原則を整理・確認し、理論的な理解を深める。 (3)上記(1)(2)とも、事前の課題を提示、予習の上講義に参加すること。 本講義はオンライン(ライブ)形式にて行う。				
到達目標	ビジネス現場における効果的なコミュニケーションの実現に向けての実践的ノウハウの理解・修得を目指す。 (1)ロジカルシンキング(クリティカルシンキング)の基本を習得できるようになる。 (2)効果的なコミュニケーションの重要性の理解とビジネスコミュニケーションの基本スキルの理解・修得できるようになる。 (3)課題の意図を理解できる能力を身に着けることができるようになる。				
評価の方法・基準	(1)評価方法 「ビジネス」に関する基本的な知識とノウハウの習得について、講義参加、事前・事後学習、期末試験(レポート)により、総合的に評価する。 (2) 評価基準 講義への参加・取り組み姿勢(30%)、レポート(事前・事後学習)(40%)、期末レポート(30%)を総合評価し、60%以上を合格とする。 特に、講義への参加や取り組み姿勢を重視する。 S: 90～100 A: 80～89 B: 70～79 C: 60～69 D: 60 未満				
参考文献等	テキスト:ハーバード・ビジネススクール(2010).『ケース・スタディ 日本企業事例集』. ダイヤモンド社. 必要に応じて、ハンドメイドのプリントを配布する。				
実務経験の概と授業の関連性	国際公務員としての実務経験を活かし、職場で起こる問題等の解決方法を適宜紹介する。				

授 業 計 画			
1	主題	ビジネススタディ 3 (ヒューマン・リソース)は何を学ぶ科目か？	
	概要	本科目の狙い、授業の進め方、本科目と経営科目との関係、ビジネス・スタディズの検討すべき視点、領域・研究方法を中心に説明し、質疑応答を行う。授業の効果的な進め方についての意見交換も行う。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	関心のある日本人経営者の一人を選び、その選択理由を A-4 で 1 枚程度に準備すること。確認を行う。
	事後学習	2	関心のある海外の経営者の一人を選び、その選択理由を A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
2	主題	学生の研究課題とヒューマン・リソースとの関係の検討	
	概要	受講生が修士論文の中からヒューマン・リソース面に着目し、事業の成否とヒューマン・リソースの関係を発表した後に、他の受講学生との討議を行う。学生の研究発表からの啓発を目的とする。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	発表用PPTの作成、発表原稿を作成する。
	事後学習	2	自己および多額性の研究報告から得た知見をA-4 で 1 枚程度に整理し、レポートとして提出する。
3	主題	ケース: 多国籍の職場でのキャリア開発と倫理	
	概要	多国籍の職員から構成される職場でのキャリア開発を成功させるための要点を学習するとともに、直面した倫理上の問題に対処する方法を学生と共に討議する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	ケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	日産元会長カルロス・ゴーン氏の報酬操作問題を調べ、事件の背景、および学生がゴーン氏の直属の部下である場合の対処方法を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
4	主題	ケース: 稲盛和夫(1) 京セラの創業	
	概要	日本を代表する起業家である稲盛和夫氏の創業、アメーバ方式を始めとする経営手法、経営理念などをケースから学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は稲盛和夫の京セラ創業について A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
5	主題	ケース: 稲盛和夫 (2) KDDIの創業	
	概要	日本を代表する起業家である稲盛和夫氏の情報産業に参入し、KDDIを創業した経緯をケースから学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は稲盛和夫の経営理念について A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
6	主題	ケース: 稲盛和夫 (3) JALの再建	
	概要	日本を代表する起業家である稲盛和夫氏が倒産した航空産業の日本航空を短期間に再上場させたケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は稲盛和夫の経営から学んだ事項を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
7	主題	ケース: 三木谷浩史(1) 楽天の創業、Eコマースの創造	
	概要	楽天を創業した三木谷浩史氏のケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	三木谷のEコマース分野で成功した要因を分析し、A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
8	主題	ケース:ジェフ・ベソス amazon の創業、Eコマースの成長・発展	
	概要	amazon を創業したジェフ・ベソス氏のケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は楽天とアマゾンの経営方法の比較を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。

9	主題	ケース: 小倉昌男 ヤマト運輸、宅急便の創造	
	概要	日本で流通革命を起こした小倉昌男の宅急便事業の創造についてのケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は小倉昌男氏のケースから学んだ事項を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
10	主題	ヤマト運輸と佐川急便の経営比較	
	概要	担当学生は流通業界大手 2 社の比較を行い、戦略の違いを発表した後、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はヤマト運輸と佐川急便の事業分野、業績を調べ、レポートとして準備する。
	事後学習	2	ヤマト運輸と佐川急便の東南アジア市場拡大の取り組みについて調べ、A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
11	主題	ケース: 日清食品 (1) 安藤百福 インスタントラーメンの創造	
	概要	インスタントラーメンを創造した安藤百福氏のケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は安藤百福氏のケースから学んだ事項を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
12	主題	ケース: 日清食品 (2) 日清食品の米国進出の可否	
	概要	日本でインスタントラーメンを販売し、成功を収めた日清食品が米国に進出するか否かを検討したケースを学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生は日清食品の米国進出のケースから学んだ事項を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
13	主題	ケース: 日本企業の著作権保護	
	概要	日本企業の著作権保護の取り組みをケースを通し学習する。担当学生は研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。ケースは担当教員が準備する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はケースを熟読し、ケース末に記載されている質問に自分なりの回答を準備する。
	事後学習	2	学生はケースから学んだ事項を A-4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
14	主題	ケース: ユニクロ (1) 柳井正 カジュアル・ウェアの創造	
	概要	担当学生は日本のアパレル産業をけん引するユニクロの柳井正氏の事業への取り組み、ユニクロについての研究発表を行い、他の受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	学生はユニクロの海外市場での取り組みについて調べ、レポートとして提出する。
	事後学習	2	学生はユニクロがカジュアル・アパレル市場で世界トップになる可能性についてのレポートを作成し、提出する。
15	主題	ケース: ユニクロ (2) 柳井正 新興国市場(バングラデシュ)での実験	
	概要	ユニクロが新興国市場での事業拡大を狙い、ノーベル平和賞を受賞したバングラデシュのグラミン銀行と協賛し進めている市場の多角化戦略について学習する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	バングラデシュのブランド、「グラミン・ユニクロ」に関する URL を視聴し、感想文を提出する。
	事後学習	2	ユニクロが欧米の文化、宗教と異なる最貧国で販売を強化している意味について分析を行い、レポートとして提出する。

区分	課題研究科目	科目名	現代経営特別演習
開講期間	通年		
選択・必修の別	必修		
配当年次	1～2 年次		
単位数	6 単位		

研究指導スケジュール

区分	1 年 次		
	春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
教 員	○オリエンテーション ○履修ガイダンス ○個別履修相談 ○研究指導（30時間）	○研究指導（30時間）	○履修ガイダンス ○個別履修相談 ○研究指導（30時間）
学 生	○研究計画書提出 ○個別面接指導 ○指導教員確定	○研究計画書確認 ○個別面接指導 ○文献調査及び実地調査	○研究計画書確認 ○個別面接指導 ○論文中間報告会 ○論文作成
区分	2 年 次		
	春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
教 員	○オリエンテーション ○履修ガイダンス ○個別履修相談 ○研究指導（30時間）	○研究指導（30時間）	○研究指導（30時間） ○論文審査及び修了認定
学 生	○個別面接指導 ○論文計画書提出 ○論文作成	○論文計画書確認 ○個別面接指導 ○調査研究のまとめ ○論文作成	○個別面接指導 ○論文研究発表会 ○論文提出 ○論文審査面接

※研究指導における単位数の考え方
春学期：2時間／週 × 15週 = 30時間
夏学期：6時間／日 × 5日 = 30時間 年間3単位 × 2年間 = 6単位
秋学期：2時間／週 × 15週 = 30時間

*研究指導に限り夏期休業期間を利用した夏学期を設定

テ ー マ	家計や企業にかかわる諸問題の実証経済学的手法による研究	担 当 者	畔上 秀人
演 習 の 目 的 ・ 内 容	現代社会におけるほとんどの問題は、経済と関連している。それは、社会を形成する人々が、生産・分配・消費といった経済活動を行って生活しているためである。たとえば環境問題は、その実態の把握には自然科学分野からの分析が不可欠であるが、企業や家計の経済活動を念頭に置かない解決策は実効性を有しない。すなわち、環境問題を伴わない原料や技術が開発されたとしても、その価格が著しく高価であれば、普及は望めない。また環境問題を伴う物質の使用を一切規制するのであれば、自然科学による深い分析すら必要ではない。結局、問題による社会的厚生を減らしつつ、人々の経済活動なるべく変化させない方法が実質的な解決策となる。 一方で、社会的厚生の変化を経済理論だけに基づいて分析することも意味を持たない。理論的分析に用いた変数を代理する現実経済の数量を見つけることは、非常に難しいことが多いのである。たとえば、マクロ経済分析上現在では固定資本として扱われる企業のソフトウェアも、かつては中間消費として取り扱われていた。その移行過程を顧みれば、マクロ経済変数が実態と乖離していた期間があったとわかる。 本演習では、受講者の関心に基づいて広い範囲の中から課題を設定し、経済学的手法で分析を進める。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となるごとに適した参考文献を閲読する。1～2年次を通じて、データの収集と分析、考察を繰り返してゆく。		

テ ー マ	グローバル化・デジタル化時代のビジネス戦略に関する理論的・実証的研究	担 当 者	李 新建
演 習 の 目 的 ・ 内 容	グローバル化やデジタル化が日増しに進んでいる時代に、企業を取り巻く環境は激変している。グローバルな競争に勝ち抜くためには国内経営と異なる経営アプローチが求められる。不連続な変化が常態的に起こるデジタル時代を生き延び・発展していくためには、技術革新（テクノロジー・イノベーション）と経営革新（マネジメント・イノベーション）の両方が必要とされる。如何にしてグローバルとデジタルな視点を持ち、複雑で不確実性が高い外部環境の変化に対応し、持続的な競争優位を構築するかが企業の生死に関わる重要な課題となる。 本演習のキーワードはグローバル経営、経営戦略及びデジタル経営である。具体的には、グローバル経営、異文化経営、経営戦略の国際比較、デジタル戦略、経営革新等の問題を中心として理論研究及び実証研究を行う。実証研究の範囲は従来の製造業・サービス業からデジタル関連企業やコンテンツ企業まで、上場企業からファミリー企業までとする。ゼミ生の関心に合わせて日米欧及び中国・韓国の代表的な企業の事例を取り上げる予定である。同時に、ゼミ生の修士論文の作成のための研究指導を行う。受講生には、高い求知心と明確な問題意識を持って演習に参加することを求める。 テキスト：ゼミ生の関心に応じて、適宜参考資料を配布する。 参考文献： 江夏健一・桑名義晴（編著）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（第4版） 同文館 2018. 根来龍之『集中講義デジタル戦略』日経BP 2019. 十川廣國『マネジメント・イノベーション』中央経済社 2009. Bartlett, C.A. & Ghoshal, S. Managing Across Borders: The Transnational Solution. Boston: Harvard Business School Press, 1989. Collis, D. International Strategy: Context, Concepts and Implications. United Kingdom: Wiley, 2014.		

テ ー マ	contemporary issues on marketing and consumer behavior (マーケティングと消費者心理に関する理論的かつ実証的研究)	担 当 者	隈 本 純
演 習 の 目 的 ・ 内 容	As consumer's demands and lifestyles in industrialized countries become more complex and exquisite, the business communities confront a host of difficult issues of selling more products and services to meet his/her satisfaction. One of the key solutions is to search and enter new markets (or to target new segment) where can hold the promise of growth and larger profits. Comprehension of marketing concepts, construction of an unique business models with interdisciplinary approaches, will play an important role in such solution of running a business effectively and strategically. This special seminar mainly focuses on the logic of marketing strategies and how products and services are consumed in the global markets. It also covers key features of uncontrollable elements (geographical, cultural, economic, legal, etc.) of extrinsic factors of markets. Psychological / physiological factors affect decision making process of consumers are also analyzed. Students are required to conduct theoretical and/or empirical research based on the seminar contents. Classroom discussion with cases and business model presentations will complement lectures given by the instructor. References will be provided upon request during the course. なお、この特別演習は日本語、英語、両方の言語で対応して開講します。		

テ ー マ	経済のグローバル化と賃金・雇用への影響に関する理論的かつ実証的研究	担 当 者	田 中 巖
演 習 の 目 的 ・ 内 容	自由貿易の進展や多国籍企業による海外現地生産の拡大に象徴される経済のグローバル化は、国際的な価格競争を激化させて、国家間のみならず一国内における経済格差をももたらしているとよく議論される。国家が開放的であればあるほどその国の企業は国際競争力を高めなければならず、部品や資金、労働力をできるだけ低いコストで調達しようとする。したがって、日本のように製品輸出に過度に依存した経済では、円高になるだけである種の労働の国内需要は低下しやすいということが容易に類推出来る。そこで、本演習では実質実効為替レートの変動と東アジアにおける垂直的統合の展開について考察し、それらが日本の製造業における雇用と賃金に及ぼす影響について検討する経済学的方法を身に付けることを目的に研究指導を行う。 1年次においては、世界のグローバリゼーションの流れを歴史的に概観し、先進国と発展途上国の間の所得格差、先進国内における賃金格差、発展途上国間に見られる格差について、統計データを用いながら現状を理解する。次に、日本的雇用形態の特徴とその変化を踏まえて、日本経済のグローバル化との関係について検討する。また、国際貿易理論を学習しその応用としてアメリカにおける貿易と賃金の問題を取り上げ、両者の関連性を捉える経済理論的枠組みを習得する。さらに、海外アウトソーシングやスウェットショップなどの国際的な経済トピックスを紹介し、自由貿易と競争の進展する社会で政府が果たすべき役割とは何かについて議論する。その上で、2年次における修士論文のテーマについて考えていく。受講生には、英語の経済文献にも積極的に取り組もうという意欲ある姿勢を期待する。		

テーマ	企業の戦略、イノベーション、および企業間関係に関する理論的・実証的研究	担当者	木川 大輔
演習の目的・内容	企業が持続的な競争優位性を保持し続けるためには、継続的なイノベーションの創出が不可欠である。他方で、技術が複雑化し、目まぐるしく経営環境が変わる昨今において、企業が単独でイノベーションを創出することはますます困難になっている。この点を踏まえると、企業の戦略、あるいはイノベーションの創出において社外のパートナーとの協同もまた不可欠であるといえるだろう。もっとも社外のパートナーとは価値を創出する局面では文字通りパートナーであるが、創出した価値を分配する局面ではライバルにもなりうる。換言すれば、企業は、一方で社外のパートナーと協調しながらイノベーションを創出し、他方でこうしたパートナー達と収益を奪う競争をしなければならない。 本演習では、企業の競争優位性の獲得やイノベーション創出に影響を与える要因について、社内の資源、外部の環境、および組織間（企業間関係）など幅広い視点から先行研究を学び、分析の枠組みを身につける。培った分析枠組みに基づき、実証（統計）分析や事例分析など研究テーマにあった手法を指導する。 テキスト：特定のテキストは設定しない。適宜参考資料を配布する。 参考文献：ロバート・A・バーゲルマンほか「技術とイノベーションの戦略的マネジメント（上）・（下）」 伊丹敬之・藤本隆宏・岡崎哲二・伊藤秀史・沼上幹 編「日本の企業システム：戦略とイノベーション」		

テーマ	組織デザイン研究ないし経営学説研究	担当者	赤尾充哉
演習の目的・内容	企業組織は単に社会生活を営む場ではなく、特定の目標をより効率的・合理的・戦略的に遂行しようとするものであり、そのためのシステムを有するものでもある。それらシステムをいかにデザインすべきかというのは、企業組織を経営するにあたって、根本的に重要な問題である。本科目は、こうした組織デザインの問題を主たるテーマとして取り扱う。 特に、技術変化の速度が速い今日の経済環境においては、組織の生存のために、より柔軟で敏速な組織体制が求められる。こうした問題には、意思決定理論、組織行動理論、進化の経済理論、ダイナミック・ケイパビリティ論などが大きく関わる。これらの理論は、本科目における研究の主要な理論的ツールとなる。 本科目におけるアプローチは、実証研究よりも理論研究・学説研究を中心とする。必要に応じて、学説研究の方法論や科学哲学について学習する場合もある。		

テーマ	企業活動におけるデザインを対象にした経営学的手法による研究	担当者	安藤 拓生
演習の目的・内容	企業活動におけるデザインを対象にするデザインマネジメントは、1970年台の前半から経営学の一領域としてその研究が始まった。初期の研究では商品の色・形、コーポレートアイデンティティなどの有形のデザインが対象にされていたが、その後の実務領域におけるデザイン対象の拡大に伴い、サービスや顧客経験のような無形物のデザインをも対象に含むようになっていった。このような変化のもと、現在ではデザインはより広義に認識されるようになり、その考え方や思考方法のビジネスへの応用といった側面にまで研究が広がっている。 本演習では、企業活動におけるデザインを広義に捉え、受講生の関心に基づいてこれに関連したテーマを設定し、さまざまな周縁的課題を扱いながら研究の方法を学んでいく。特に、デザインを企業経営の一つの要素として捉え、経営学的手法で分析を進める方法を学ぶ。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となるごとに適した参考文献を閲読する。1～2年次を通じて、テーマの設定からデータの収集と分析、考察を通して研究を実践していく。		

テーマ	企業経営が抱える諸問題の会計理論と会計制度に関する研究	担当者	木村 昭興
演習の目的・内容	目まぐるしく変化する現代社会において、会計システムから導かれる会計情報の活用が不可欠になっている。それは、企業が継続的に経済活動を行っていくために、会計がさまざまな役割を担っているからである。つまり、会計は、企業の経済活動を計数的に描写した写像である。たとえば、一般的な企業の形態である株式会社は、株主から出資された資金をもとに経済活動を行っている。そのため、その資金をもとにして、どのように使い、どのような成果をあげたのかを明らかにする必要がある。企業の経済活動から得られた成果は、財務諸表で表され、経営者が合理的に経済活動が行われたか否かが問われる。つまり、会計は、獲得した資金の運用について説明責任を果たす機能を有するものである。また、経営者には、企業が有する限られた経営資源を活用し、いかに多くの経済的成果をあげたかが求められる。経営者は、経済活動の実態を把握し、組織を方向づけるために、会計情報を活用する。つまり、経営者は、合理的な経営上の意思決定を行っている。会計は、企業の経済活動にとって不可欠なものである。 一方、現代社会に目を向けると、持続可能な社会に向けて企業経営にあり方が変化している。それを受けて、会計が対象とする領域も拡大しており、新たな課題も検討されている。 本演習では、受講者の関心に基づいて広い範囲の中から課題を設定し、会計的な思考をもって研究を進める。そのため、テキストは事前に指定せず、研究の方向性および進捗状況を踏まえて適した参考文献を閲読する。先行文献を多読することで、受講者の研究意義を探求し、理論をベースとした考察から深く研究を進めることを基本とする。		

テ ー マ	金融経済に関する実証研究	担 当 者	富田 洋介
演 習 の 目 的 ・ 内 容	本講義では制度経済学の視点から金融経済を多角的に分析する。制度経済学とは、各国の制度的背景を重視し、画一的な理論では導き出せない各国の諸事情を踏まえて理論化し、その事象について実証的に検証する学問である。したがって、経済・金融・企業財務・法環境・歴史といった数多くの分野に触れる機会を持つであろうが、その都度丁寧に内容を解説していく。 特に金融機関（投資運用、銀行、証券、投資顧問、投資信託、保険）や金融制度（証券制度、資産管理、決済、為替など）企業金融（コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス）に興味があり、熱意のある学生さんを歓迎する。 上記以外でも、金融経済もしくは実証研究に興味のある学生さんについても歓迎する。 同時に、院生さん各自のテーマに基づき、計量経済学や多変量解析を中心とした分析手法を身に付けて頂けるように指導する。したがって、ある一定の数学的な能力が求められるため、初学者の場合にはより一層の努力を要求する。（数学は論文の読み・書きに必要な直感的な理解を優先して学習していただく。） 講義としては、学生さんの興味のある論文の精読からスタートし、その論文にて使用されている分析ツールの習得と理論の構築方法を学習する予定である。		

テ ー マ		担 当 者	セーラ バーチュリ
演 習 の 目 的 ・ 内 容			

区 分	大学院 現代経営 研究科 基礎科目	科 目 名	経営学研究	担 当 者	安藤 拓生 /木川 大輔
開 講 期 間			通年		
選 択 ・ 必 修 の 別			選択		
配 当 年 次			1 年		
単 位 数			4 単位		
授 業 形 態			講義科目		
実務経験の有無					
講 義 の 目 的 ・ 内 容	本科目は、大学院における学習・研究を効果的に行うための基礎科目に属する。したがって、現代経営学部（経営学部）出身の入学生にとっては既に学習してきたことの整理・確認および理解を深める機会として、他学部・他分野からの入学生にとっては経営学の基本的な知識を習得し、研究活動の礎を形成する機会となる。 講義内容は授業計画に記載するように経営学全般にわたる。各回、テキストをもとに事前学習していることが前提として講義を進行し、理解確認のためのフォローや関連課題の討議を中心に行う。また、現代の企業経営における実践的なケースを紹介し、経営理論と結びつけて考える習慣を醸成していきたい。 なお、第 1～15 回（春学期）を安藤、第 16～30 回（秋学期）を木川が担当する。				
到 達 目 標	(1)経営学の基礎的知識を習得・確認する。 (2)経営学を体系的に理解し、統合的・学際的な思考力の向上を図る。 (3)マネジメントの諸理論をベースとし、現代的な諸問題の解決や課題の達成に向けた思考力の向上を図る。				
評 価 の 方 法 ・ 基 準	(1)評価の方法 経営学に関する基本的な知識とノウハウの習得、ディスカッションなどの授業参加、事前学習・事後学習、レポート、期末レポートにより総合的に評価する。 (2)評価基準 授業参加 30%、レポート(事前・事後学習) 30%、期末レポート 40%とし、60%以上を合格とする。 S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参 考 文 献 ・ テ キ ス ト 等	(1)テキスト 初回講義時に指定する。 (2)参考文献 井原久光『テキスト経営学(第 3 版)』ミネルヴァ書房、2008 年 ハーシー、ブランチャード&ジョンソン『行動科学の展開[新版]－人的資源の活用』生産性出版、2000 年 ダフト『組織の経営学』ダイヤモンド社、2002 年 大滝精一・山田英夫・金井一頼・岩田智『経営戦略[新版]』有斐閣、2006 年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2008 年 チャンドラーJr『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004 年				
と実 務 経 験 の 関 連 概 要					

授 業 計 画			
1	主題	経営学の学び方(1)	
	概要	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。 基礎知識や経営分野における関心を確認する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	
	事後学習	2	
2	主題	経営学と企業制度(1)	
	概要	経営学の学問的位置づけを学び、理論と実践の調和について考える	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
3	主題	経営学と企業制度(2)	
	概要	株式会社の仕組みを理解し、ステークホルダーとの関係を考える	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
4	主題	経営戦略(1)	
	概要	経営戦略の位置づけについて理解する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
5	主題	経営戦略(2)	
	概要	ポーターの競争戦略について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
6	主題	経営戦略(3)	
	概要	資源ベース理論について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
7	主題	経営戦略(4)	
	概要	3つの経済性について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
8	主題	経営管理と組織(1)	
	概要	伝統的な管理理論について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
9	主題	経営管理と組織(2)	
	概要	行動科学の理論について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。

10	主題	経営管理と組織(3)	
	概要	組織構造について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
11	主題	経営管理と組織(4)	
	概要	組織文化について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
12	主題	人的資源管理(1)	
	概要	人事制度・人事評価制度について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	授事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
13	主題	人的資源管理(2)	
	概要	賃金・労働時間にかかる問題について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
14	主題	人的資源管理(3)	
	概要	人材育成とキャリアにかかる問題について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
15	主題	春学期総括	
	概要	春学期に学習した内容を振り返る	
		時間	学修内容
	事前学習	2	春学期の授業で配布した資料、ノートなどを読み返し内容を復習しておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
16	主題	経営学の学び方(2)	
	概要	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。 基礎知識や経営分野における関心を確認する。	
		時間	学修内容
	事前学習	2	
	事後学習	2	
17	主題	マーケティング(1)	
	概要	マーケティング・コンセプトについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
18	主題	マーケティング(2)	
	概要	マーケティング・ミックスについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。

19	主題	マーケティング(3)	
	概要	STPマーケティングについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
20	主題	マーケティング(4)	
	概要	イノベーションについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
21	主題	マーケティング(5)	
	概要	市場調査について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
22	主題	製品開発と生産管理(1)	
	概要	生産管理活動について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
23	主題	製品開発と生産管理(2)	
	概要	生産形態について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
24	主題	製品開発と生産管理(3)	
	概要	製品開発について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
25	主題	製品開発と生産管理(4)	
	概要	デザイン・マネジメントについて理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
26	主題	会計学(1)	
	概要	企業会計の基礎を理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
27	主題	会計学(2)	
	概要	経営指標について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	授事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。

28	主題	企業倫理(1)	
	概要	企業の社会的責任について理解する	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
29	主題	企業倫理(2)	
	概要	企業不祥事について考える	
		時間	学修内容
	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
30	主題	秋学期総括	
	概要	秋学期に学習した内容を振り返る	
		時間	学修内容
	事前学習	2	秋学期の授業で配布した資料、ノートなどを読み返し内容を復習しておく。
	事後学習	2	指示された課題に取り組む。